

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	生活デザイン総論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 服飾美術学科における、ファッション・デザイン・アート、情報・地域・ビジネスの観点から多角的な知識や感性を養うとともに、歴史的、文化的に知的教養として幅広く認識し、生活デザインについて深く追求し、考察することを目標とする。 【到達目標】 ・ファッション・デザイン・アート、情報・地域・ビジネス分野についての知的教養が身についている。 ・生活デザインについて多角的な知識と感性を持ち、考察することができる。				
授 業 の 内 容 方 進 め 方	以下の通り、各教員が原則として1回ずつ（一部は2回）担当する（全15回）。 1. Google Workspace for education によるクラウド活用について（担当：大原） 2. パソコンとスマホによるGoogle Classroom の活用について（担当：大原） 3. 企業・組織の活動について具体的な事例をもとに説明を行い、考察する（担当：岩崎） 4. 主にマーケティングの視点から、ファッション・ビジネスの事例を取りあげて考察する（担当：岩崎） 5. 現在の服の形について、その成り立ちを歴史的な変化を通して論じる（担当：乾） 6. アパレルデザインの発想と表現法（担当：乾） 7. 現代アート入門：ガイダンス（担当：趙） 8. アドバンス・アート造形が目指すものや、グラフィックの可能性について（担当：趙） 9. テキスタイルデザインと社会との関わり（担当：田中） 10. テキスタイルアート表現の多様性（担当：田中） 11. 身の回りにあるデザインについて論じる。（担当：佐藤） 12. 生体の特徴を考慮した機能性のデザインについて論じる。（担当：佐藤） 13. 繊維産地児島のものづくり 歴史的背景（担当：道明） 14. 場づくりについて：デザイン・アートプロジェクトの企画および身体との関わり（担当：上村） 15. 経済学の観点から地域のまちづくりを考える。（担当：田鹿） 定期試験は実施しない 各教員の担当順は都合により変更することがある。				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	参考資料：『ひとはなぜ服を着るのか』鷺田清一（ちくま文庫）、『河北秀也のデザイン原論』河北秀也（新曜社）、『アパレル科学概論（生活環境学ライブラリー）』松生勝 編著（朝倉書店）、福嶋宏訓 著 原山麻美子 編著（技術評論社）				
事前学習の内容	参考資料をよく読んでおくこと。				
事後学習の内容	授業内容を振り返り、課題を完成させる。				
評 価 の 方 法 基 準	授業毎に提出する課題（80%） 観察記録（20%）				
履 修 上 の 注 意	各教員の担当順は都合により変更することがある。 授業毎の課題の提出がないと成績がつけられないため、注意してください。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	榊原・児島・大川・高杉・前田・藤原・大原・岩崎・田鹿			
授 業 科 目	アパレル総論		科目区分	専門科目	2 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・後期	
授 業 の 主 題 標 目	【授業の主題】 この講義は、繊維産地である倉敷市児島地域のアパレル企業で活躍する方を招き、アパレル産業の構造、企画・デザイン、マーケティング、品質管理、生産管理、物流、海外展開などについて講義がなされる。また、児島地域の歴史や地場産業としての繊維産業が発達した背景、仕事術やキャリアデザインについても言及される。 【到達目標】 ・日ごろ大学で学んでいる理論や考え方が現場でどのように活かされているかの考察ができる。 ・児島地域の歴史や地場産業として繊維産業が発達した背景を学んでおり、企業で活躍する方のお話を伺うなかで自分自身のキャリアデザインを描ける能力が身についている。					
授 業 の 内 容 進 め 方	繊維産業と言っても、そのすそ野は広くさまざまな業界があります。この講義では児島地区で生産が盛んな学生服、作業服、テキスタイル、洗い加工の各業界について学びます。 1. はじめに（担当：岩崎・大原・田鹿） 児島の学生服・繊維産業企業・工場見学について、企業研究レポート作成 2. テキスタイル業界について(1)（担当：高杉） テキスタイル業界の歴史と世界の動向、テキスタイルと児島地域 3. テキスタイル業界について(2)（担当：高杉） ものづくり、素材、染めの方法、デニム、生産管理、品質管理 4. テキスタイル業界について(3)（担当：高杉） 工場見学（動画鑑賞やオンラインの可能性もあり） 5. テキスタイル業界について(4)（担当：高杉） グローバル・マーケティング戦略、海外見本市、中小企業政策と海外展開 6. 学生服業界について(1)（担当：榊原） 学生服の歴史、学生服と児島地域 7. 学生服業界について(2)（担当：榊原）生産管理、品質管理、マーケティング戦略、流通チャネル、ブランディング 8. 学生服業界について(3)（担当：児島） 企画・デザイン、ものづくり、デザイナー職、企画職 9. 学生服業界について(4)（担当：榊原） 工場見学（動画鑑賞やオンラインの可能性もあり） 10. 作業服(1)（担当：大川） 作業服の歴史、作業服と児島地域、 11. 作業服(2)（担当：大川） 工場見学（動画鑑賞やオンラインの可能性もあり） 12. 洗い加工業界について(1)（担当：前田） 洗い加工業界とは、洗い加工業界と児島地域 13. 洗い加工業界について(2)（担当：前田） 工場見学（動画鑑賞やオンラインの可能性もあり） 14. 児島の縫製を知る(1)（担当：藤原） 児島における縫製の歴史 15. 児島の縫製を知る(2)（担当：藤原） 児島における縫製の現在 定期試験は実施しない					
実 務 経 験 を 活 か す 内 容						
テ キ ス ト 教 材	【参考書】佐山周、大枝一郎(2011)『1秒でわかる!アパレル業界ハンドブック』東洋経済新報社					
事前学習の内容	児島の繊維産業や企業について予備調査すること。 各企業の先生に質問をすることができるよう、業界や企業について事前学習すること。					
事後学習の内容	各回授業で進んだ範囲について、紹介した参考書および配った資料類を復習する。					
評 価 の 方 法 基 準	期末レポート（50%） 授業・工場見学毎に提出するミニレポート（50%）					
履 修 上 の 意 注	・意欲的に授業を聞く姿勢を心がけること。 ・工場見学の際には、身動きの取りやすい適切な服装を心がけること。 ・毎授業、リアクション・ペーパーの記入と提出が必要である。					

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	乾 眞理子		
授 業 科 目	服飾造形論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 服飾造形のプロセスの概要を理解する。また、多様な衣服の形状や構造、被服造形に必要な人体について造詣を深め、人体の運動と衣服パターンとの関係を理解する。また、基本的なパターンメイキングの考え方を学ぶ。 【到達目標】 ・ 基本的な衣服の形状や構造を理解し、流行の服のディテールの説明ができる。 ・ 服飾造形のプロセスが説明できる。 ・ 身頃、スカート、ズボンの基本原型の考え方を理解している。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 衣服とは 2. 服飾造形とは・衣服の変遷 3. 衣服の分類・TPO 4. 服制作のプロセス 5. 人体の形状 6. 衣服の生産方法 7. 人体計測法 パターンメイキングの基礎 8. 原型の考え方・種類 9. 原型を応用した身頃パターン作図の基礎 10. 衿の作図 11. 袖の作図 12. スカートの作図の考え方 13. パンツの作図の考え方 14. 作図の展開とそのまとめ方について 15. まとめ・試験				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	テキスト：『文化ファッション体系 服飾造形講座(1) 服飾造形の基礎』文化出版局 (参考書：石川欣造他『アパレル設計・生産論』日本衣料管理協会) プリントを配布するので各自でファイリングをすること。				
事前学習の内容	テキストの該当部分を予習すること。				
事後学習の内容	講義の内容が、普段の生活の中でどのようになっているのか注視する。 毎回の課題を完成させる。				
評 価 の 方 法 基 準	課題提出 (60%) 試験 (40%)				
履 修 上 の 意 注	本 科：服飾造形実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、パターンメイキング (CAD) Ⅰ・Ⅱを受講する人は履修しておくこと。 専攻科：被服心理学・パターンメイキング論・服飾造形実技Ⅱを受講する人は履修しておくことが望ましい。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	乾 眞理子		
授 業 科 目	服飾造形実習Ⅰ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 衣服の設計、製作に関する基礎的な実習を行う。平面作図によりスカートと身頃の原型を作成し、作図方法の手順を学ぶ。また、基礎縫いやタイトスカートの製作を通して、スカートの原型と人体の関係を理解し、ファスナー付けやウエストベルト付けなど部分縫いの知識やそれらを縫製できる技術を習得する。 【到達目標】 ・裏付きタイトスカートを設計及び縫製し、作り上げることができる。 ・ファスナーやウエストベルト付けを理解し、仕立てる技術が身についている。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 機器・用具の説明 基礎縫い（手縫い） 2. 基礎縫い（ミシン・ロックミシン） 3. 採寸・タイトスカートパターン作成 4. 裁断（シーチング）・印つけ・組み立て 5. 試着・パターン修正 6. 裁断（本布）・印つけ・接着芯裁断 7. 伸び止めテープ付け・縫い代の始末・パンツ作成 8. ファスナー付け 9. ダーツ縫い・脇縫い・裏地裁断 10. 裏地縫製 11. ウエストベルト作り・ウエストベルト付け 12. ホック付け・裾上げ 13. レポート作成 14. 着装評価・試験 15. 身頃原型作図				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『文化ファッション体系 服飾造形講座(1) 服飾造形の基礎』文化出版局 『文化ファッション体系 服飾造形講座(2) スカート・パンツ』文化出版局				
事前学習の内容	当日行う授業内容を教科書を見て確認しておくこと。				
事後学習の内容	前回の工程までできていない箇所はやっておくこと。 必要な材料は各自準備してくること。				
評 価 の 方 法 基 準	課題作品（60%）、レポート（20%）、試験（20%）				
履 修 上 の 注 意	原則として遅刻・欠席をしないようにしてください。授業時間外の作業が発生する可能性があります。 服飾造形実習Ⅲを受講する人は履修しておくこと。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	乾 眞理子・小野 華子		
授 業 科 目	服飾造形実習Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 衣服の設計、製作に関する基礎的な実習として、上半身衣であるシャツを製作する。製作を通じ、上半身の原型からパターン展開できる能力を身につける。さらに衿やカフスなど部分縫いの知識やそれらを縫製できる技術を習得する。 【到達目標】 ・ヨーク付き台衿シャツの設計及び製作を行うことができる。 ・衿やカフスなどの部分縫いを綺麗に仕立てる技術が身についている。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. シーチングによる原型の組み立てと補正 (担当：乾・小野) 2. パターン製作(1)身頃・ポケット (担当：乾・小野) 3. パターン製作(1)衿 (担当：乾・小野) 4. パターン製作(2)袖・カフス・短冊 (担当：乾・小野) 5. 裁断 表地・接着芯 (担当：乾・小野) 6. 印つけ・ダーツ・ポケットの縫製 (担当：乾・小野) 7. 身頃の縫製 (担当：乾・小野) 8. 衿作り・衿付け (担当：乾・小野) 9. 袖作り・袖つけ (担当：乾・小野) 10. 脇縫い・カフスの縫製 (担当：乾・小野) 11. ボタンホール・ボタンつけ (担当：乾・小野) 12. 仕上げ・アイロン (担当：乾・小野) 13. 着装・提出 (担当：乾・小野) 14. まとめ・試験 (担当：乾・小野) 15. レポート作成 (担当：乾・小野)				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『文化ファッション体系 服飾造形講座(1) 服飾造形の基礎』文化出版局 『文化ファッション体系 服飾造形講座(3) ブラウス・ワンピース』文化出版局				
事前学習の内容	必要な材料、道具を準備してくること。				
事後学習の内容	製作方法等の振り返りを行う。授業内で終わらなかった課題について、次回までに終えておくこと。				
評 価 の 方 法 基 準	課題作品 (50%)、レポート (20%)、試験 (10%)、毎回の課題の到達度 (20%)				
履 修 上 の 注 意	服飾造形実習Ⅰ (1 年次・前期) を履修していることが望ましい。 A クラスは乾、B クラスは小野が担当。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	小野 華子		
授 業 科 目	服飾造形実習Ⅲ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 西洋の服とは異なる和服の構成や着方についての考え方などを学び、日本文化についての知見を広げる。単衣長着（浴衣）の製作を通じ、和服制作の方法を学ぶとともに日本独自の手縫いの技術を習得する。実際に仕上がった着物を着ることで和服を着る楽しさについても体験する。 【到達目標】 ・和服の構造や着方について理解している。 ・単衣長着(浴衣)の製作を行うことができる。 ・耳ぐけや三つ折りぐけなど、日本独自の手縫いの技術を習得している。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 和服の歴史・構成および道具の説明と採寸・折型の製作 2. へらの使い方と手縫い・裁ち方図の説明 3. 裁断 4. 袖の印つけ・袖作り 5. 身頃の印つけ・背縫い 6. 脇縫い 7. 耳ぐけ 8. 衽作り 9. 衽付け 10. 裾縫い 11. 共衿つけ・三つ衿芯 12. 衿つけ 13. 袖つけ 14. 着方とたたみ方・レポート作成 15. まとめ・着装試験・作品撮影 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	適宜配布。 参考図書：滝沢ヒロ子『新しい和裁全書―基礎から大裁ち・綿入れまで』永岡書店				
事前学習の内容	必要な材料、道具を準備してくること。				
事後学習の内容	製作方法等の振り返りを行う。授業内で終わらなかった課題について、次回までに終えておくこと。				
評 価 の 方 法 基 準	課題作品(60%)、レポート(20%)、毎回の課題の到達度(20%)				
履 修 上 の 注 意	手縫いとミシン縫いを併用します。洋裁よりも制作時間がかかります。 浴衣生地（1反）、糸（手縫い、ミシン）、裁縫道具を各自準備してください。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	乾 眞理子			
授 業 科 目	服飾造形実習Ⅳ			科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	2 年次・後期	
授 業 の 主 題 標 目	【授業の主題】 衣服の構造の理解と造形技術の習得を深め、服飾造形に役立つ学習をする。 ワンピース（袖付き・裏付き衣服）の製作を通して人体計測・パターン作成・ドレーピング・パターンからデザイン創作、応用縫製技法・特殊素材と縫製機器の取り扱いなどを学習する。 【到達目標】 ・袖付き・裏付き衣服（ワンピース）をデザインから縫製まで行い、完成させることができる。					
授 業 の 内 容 進 め 方	1. ワンピースの解説・デザイン画の作図 2. パターンの作成（身頃・スカート） 3. パターンの作成（袖・衿） 4. 裁断・印付け 5. 組み立て 6. 試着・パターン修正・裏地裁断 7. 縫い代の始末・接着芯付け 8. ダーツ・肩縫い・裏地縫い 9. スカート作成 10. ファスナー付け 11. 袖作り 12. 袖付け 13. 衿ぐり 14. 仕上げ 15. 着装評価 定期試験は実施しない					
実 務 経 験 を 活 か す 内 容						
テ キ ス ト 教 材	誌上・パターン塾 Vol.4 ワンピース編（文化出版局 MOOK シリーズ） 参考図書：『文化ファッション大系服飾造形講座ブラウス・ワンピース』 文化服装学院編					
事前学習の内容	必要な材料、道具を準備してくること。					
事後学習の内容	製作方法等の振り返りを行う。授業内で終わらなかった課題について、次回までに終えておくこと。					
評 価 の 方 法 基 準	課題の提出物（60%） レポート（20%） 毎回の課題の到達度（20%）					
履 修 上 の 意 注	原則として遅刻・欠席はしないようにすること。 授業時間外の作業が発生する場合がある。 服飾造形実習Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。					

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	乾 眞理子		
授 業 科 目	パターンメイキング (CAD) I		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 アパレルメーカーにおいて活用されているアパレル CAD (Computer Aided Design) システムを用いてパターンメイキングを行い、その基礎理論と作図技法を習得することを目的とする。また、CAD で行うパターンメイキングのメリット、デメリットを理解する。 【到達目標】 ・簡単な作図をみて CAD を用いて作図ができる。 ・身頃やスカートの原型を用い、ダーツ移動やデザイン展開ができる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. パターンメイキングおよびCAD の概説・CAD の基本操作 2. 上半身スローパーのデザイン展開 ダーツ移動 3. 上半身スローパーのデザイン展開 ベーシックなブラウスの製図 身頃・ピンタック 4. 上半身スローパーのデザイン展開 ベーシックなブラウスの製図 衿 5. 上半身スローパーのデザイン展開 ベーシックなブラウスの製図 袖 6. 上半身スローパーのデザイン展開 衿のバリエーション製図 7. 上半身スローパーのデザイン展開 袖のバリエーション製図 8. 下半身スローパーのデザイン展開 セミタイトスカート・フレアスカート・プリーツスカート等 9. 下半身スローパーのデザイン展開 マーメードスカート 2 種類 10. ワンピースドレスの製図 プリンセスラインのワンピースの製図 11. パンツの製図 ストレートパンツの製図 前 12. パンツの製図 ストレートパンツの製図 後ろ 13. パターンの読み取り・補正 14. 試験・パターンのプロッター出力 15. まとめ				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	適宜プリントを配布する。ファイリングすること。 参考書：『文化ファッション体系 服飾造形講座(1) 服飾造形の基礎』文化出版局 参考書：『文化ファッション体系 服飾造形講座(2) スカート・パンツ』文化出版局 参考書：『文化ファッション体系 服飾造形講座(3) ブラウス・ワンピース』文化出版局				
事前学習の内容	授業で行った内容を復習してこること。				
事後学習の内容	前回の内容までできていない箇所はやっておくこと。				
評 価 の 方 法 基 準	課題 (70%)、試験 (30%)				
履 修 上 の 意 注	服飾造形論 (1 年次・前期) を履修していることが望ましい。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	乾 眞理子		
授 業 科 目	パターンメイキング (CAD) II		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年 次 ・ 前 期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 ドレーピングによるパターンメイキングについて学び、衣服と人体の形態との関係を理解する。工業用パターンに必要な縫い代付けや、グレーディング、マーキング、縫製仕様書について理解する。アパレル CAD システムの操作方法を学ぶとともに、工業用パターンの理解を深める。 【到達目標】 ・簡単なスカート、ブラウスをドレーピングできる。 ・グレーディング、マーキング、縫製仕様書について説明できる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. スカートのドレーピング 2. スカートのドレーピングの平面への展開 3. ブラウスのドレーピング 前身頃のドレーピング 4. ブラウスのドレーピング 後ろ身頃のドレーピング 5. ブラウスのドレーピング 前後身頃の平面への展開 6. ブラウスのドレーピング 襟のドレーピング 7. ブラウスのドレーピング 袖のドレーピング 8. ブラウスのドレーピング 襟・袖の平面への展開 9. グレーディング・スカート 10. グレーディング・身頃 11. CAD でのグレーディング 12. 縫い代付けの基礎と CAD を利用した縫い代付けの基本操作 13. マーキングの基礎と CAD を利用したマーキングの基本操作 14. 縫製仕様書の作成 15. まとめ・試験				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	適宜プリントを配布します。指示に従ってファイリングすること。 参考書：『文化ファッション体系 服飾造形講座(1) 服飾造形の基礎』文化出版局				
事前学習の内容	配布資料を事前に読み、概要を把握しておく。				
事後学習の内容	課題を完成し、要点をまとめておく。				
評 価 の 方 法 基 準	各回の課題 (80%)、試験 (20%)				
履 修 上 の 注 意	パターンメイキング(CAD) I を履修しておくことが望ましい。 専攻科：パターンメイキング論を受講するには履修しておくことが望ましい。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	川東 正武・高杉 哲朗・松田 広樹・前田 進悟		
授 業 科 目	デニム学		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 ジーンズの街として知られる倉敷市児島の地域資源であるデニムについて、倉敷市における繊維産業発展の歴史とデニム・ジーンズとの関りや、ジーンズの歴史、児島地区の特色を学び理解する。また、デニム素材の特徴やデニム・ジーンズ製品ができるまでの縫製・洗い加工工程についても知識を深め、デニム製品を適切に取り扱える知識を養う。さらに学んだ知識を生かし、他の分野でも活用可能な応用力を習得する。 【到達目標】 ・ジーンズの歴史や児島のジーンズ文化について理解している。 ・製品としてのジーンズの製造工程を理解し、デニム製品を適切に取り扱える知識を身につけている。 ・修得した知識を他の分野に活用し、更なる発展を可能とする応用力を習得している。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 倉敷市における繊維産業の発展とデニムの関わり (川東正武) 2. デニム・ジーンズ産業の起こりと発展の歴史 (川東正武) 3. デニム素材について(1)繊維・糸 (高杉哲朗) 4. デニム素材について(2)染色 (高杉哲朗) 5. デニム素材について(3)製織 (高杉哲朗) 6. デニム素材について(4)生地の特徴 (高杉哲朗) 7. ジーンズとは、ジーンズの小売りと製品取扱 (松田広樹) 8. ジーンズの構造と特徴、副資材、製造準備 (松田広樹) 9. ジーンズの縫製工程、縫い方の種類 (松田広樹) 10. 海外から見た児島のデニム・ジーンズ文化、海外生産 (高杉哲朗) 11. ジーンズの洗い加工(1) (前田進悟) 12. ジーンズの洗い加工(2) (前田進悟) 13. ジーンズの洗い加工(3) (前田進悟) 14. ジーンズ製品の種類、品質管理と製品検査 (松田広樹) 15. まとめ・試験 (川東正武)				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『ジーンズソムリエ資格認定試験公式テキスト』(一社) 児島ファッションセンター・岡山県アパレル工業組合 その他、適宜配布。				
事前学習の内容	学習範囲のテキストを事前に読んでおく。				
事後学習の内容	ノート等を振り返り、学習した内容についての復習を行う。				
評 価 の 方 法 基 準	レポート試験 (80%)、観察記録 (20%)				
履 修 上 の 注 意	初回授業はテキストの販売を行います。欠席しないでください。事前のテキスト購入は必要ありません。ジーンズソムリエ資格認定試験を受験する人は、受講をお勧めします。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	岩尾 慎一		
授 業 科 目	デニム学演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 倉敷市児島の地域資源であるジーンズや学生服の背景の現状を理解し、地域課題の発見や解決を行うプロジェクトに実践的に取り組む。具体的に商品サンプルを作成する事を通して物作りの流れを理解し地域人材として活躍できる力を身につける。 【到達目標】 ・地域人材としての課題の発見や解決のアイデアを提案できるようになる。 ・企画した商品を作成し宣伝、販売するところまで実行できる。 ・グループで協力できるコミュニケーション能力が身についている。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. デニム学演習の授業の進め方の説明 2. デニム小物のコンセプトの決定とデザイン画 3. デニム小物のパターン作成 4. デニム小物の作成① 5. デニム小物の作成② 6. デニム小物の広告、販売方法の検討 7. デニム小物作品の観察と評価 8. フェンツ小物のコンセプトの決定とデザイン画 9. フェンツ小物のパターン作成 10. フェンツ小物の作成① 11. フェンツ小物の作成② 12. フェンツ小物の広告、販売方法の検討 13. 作品の観察と評価 14. 展示方法の検討、販売 15. 総括 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	参考書:『ジーンズソムリエ資格認定試験公式テキスト』岡山県アパレル工業組合(株)児島ファッションセンター				
事前学習の内容	身の回りのデニム製品を選定、自分なりの観察評価する事。				
事後学習の内容	自身とクラスメイトの企画、作成した物に対して観察評価する事。				
評 価 の 方 法 基 準	課題 (70%) グループワーク (20%)、リーダーシップ (10%)				
履 修 上 の 意 注	学外活動を行う場合があります。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	藤田 光恵		
授 業 科 目	手工芸	科目区分	専門科目	1 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	2 年次・後期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 手工芸は創造的な自己表現の手段であり、実用性と芸術性を兼ね備えた技術です。本講座では、かぎ針編みの基礎技術を学び、平面から立体へと発展させ、編み物の可能性を広げることを目指します。 【到達目標】 かぎ針の基本技術を習得し、平面から立体造形へと進めることで、オリジナル作品の制作ができるようになることを目標とします。最終的には、自らデザインした作品を完成させ、発表できる力を養います。				
授 業 の 内 容 進 め 方	前半（1～6回）：基礎技術の習得 - 技法：指編みで鎖編み 座学：オリエンテーション、編み物とは何か - 技法：鎖編みをほどく、ほどいた糸の始末、こま編みの往復編み 座学：編み直せるということ - 技法：こま編みの輪編み（畝編み、すじ編み） 座学：輪編みの可能性と活用例 - 技法：こま編みによる増し目と減らし目 座学：編み物による造形（平面） - 技法：とじとはぎ（基礎）、前回の宿題をつなげてコースター制作 座学：とじはぎ技法の種類と応用 - 技法：中長編み、長編み、長長編み 座学：立ち上がりの概念 中盤（7～12回）：立体造形と応用技術 - 技法：立体の基礎（球体を編む） 座学：立体造形の基本概念（立体構造と編み方の違い） - 技法：顔作り、球体の応用（手足、胴体） 座学：動物やキャラクター造形の基礎 - 技法：綿の詰め方、パーツのつなぎ方（手足・耳の取り付け） 座学：あみぐるみデザインの基本 - 技法：毛糸の選択と異素材の組み合わせ（羊毛、木材など） 座学：異素材の活用方法とオリジナル性を高める工夫 - 技法：基本の編み方で複雑な形のつくる 座学：オリジナル作品の設計 - 技法：作品の仕上げ（糸始末、補強、編み地の調整） 座学：見せ方の工夫、展示方法のアイデア、ストーリーの伝え方 後半（13～15回）：オリジナル作品制作と発表 - 技法：オリジナル作品の制作開始 座学：デザインのブラッシュアップ - 技法：作品の仕上げ 座学：作品のストーリーを考える - 技法：作品の発表と講評 座学：編み物を通じた表現力について 毎回宿題あり（14回まで） 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	特定の教科書は使用せず、授業内で適宜プリントを配布。必要に応じて参考資料（※）を紹介する。 ※例：講師の著書本『HOPE』（希望者のみ購入）。				
事前学習の内容	授業で学ぶ技法や作品のテーマについて事前に調べ、イメージを膨らませておく。				
事後学習の内容	授業で学んだ技法を練習し、応用できるようにする。特に宿題は次のステップに進む重要な準備となるため、計画的に取り組むこと。可能なら授業外で作品を作り、次回共有する。				
評 価 の 方 法 基 準	宿題の提出と取り組み姿勢（30%）、中間課題の完成度と創造性（30%） 最終作品の完成度・表現力・独創性（40%）				
履 修 上 の 注 意	配布したプリントや制作中の作品は毎回授業に持参すること。宿題は授業の理解を深めるために不可欠な要素であり、毎回の提出が求められる。未提出の場合、進度に影響するため注意すること。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	佐藤 希代子		
授 業 科 目	服飾管理学		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 標 目	【授業の主題】 衣服の着用においては外観の美しさを損なわないことや、汚れを落として衛生上にも清潔かつ快適な状態に保つことは大切なことである。 この授業では、衣服を繰り返し使用しても初期性能を変化させないために適切な洗濯方法や保管方法などを学び、さらには環境保全のために衣服の廃棄や洗濯排水と環境の関連を学ぶことを目的とする。 【到達目標】 洗浄科学や保管と環境との関係について知識や理解を深めることを目標とする。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 衣服に要求される性能 2. 付着する汚れの種類 3. 汚れによる性能低下 4. 衣服の洗浄－洗濯用水 5. 衣服の洗浄－界面活性剤 6. 衣服の洗浄－衣料用洗剤に配合する添加剤 7. 家庭洗濯－洗浄力（温度、時間、浴比等） 8. 家庭洗濯－すすぎ、脱水、乾燥 9. 家庭洗濯－漂白、増白、しみ抜き 10. 家庭洗濯－糊付け、アイロンがけ 11. 商業洗濯－ドライクリーニング 12. 洗浄と環境問題 13. 衣服の保管－環境による変質、微生物による変質、虫害による変質 14. 衣生活の設計－衣服の廃棄、リユース、リサイクル 15. まとめ・筆記試験				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	テキスト：片山倫子編著『衣の科学シリーズ 衣服管理の科学』建帛社 参考図書：大野静枝・石井照子編著『衣生活の科学－衣生活論－』建帛社				
事前学習の内容	テキストを読了しておくこと。				
事後学習の内容	テキストを参考に、授業ノートまとめ。 課題の取り組み。				
評 価 の 方 法 基 準	観察記録 (20%) 筆記試験 (80%)				
履 修 上 の 注 意	特になし				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	佐藤 希代子・道明 伸幸		
授 業 科 目	服飾管理学実験		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実験	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 被服を繰り返し利用する際の取扱いとして、初期の性能を変化させないために必要な洗濯や保管方法について学ぶことを目的とする。 【到達目標】 実験を行うことにより被服の洗浄に関する理解度を深め、更に洗濯排水と環境問題との関連を理解することを目標とする。				
授 業 の 内 容 進 め 方	以下の計画に従って実験を行い、各実験についてレポートの提出を求める。 1. 実験についての注意（担当：佐藤・道明） 2. 石鹼の生成（担当：佐藤・道明） 3. 界面現象の体験（担当：佐藤・道明） 4. 臨界ミセル濃度の測定（色素法）（担当：佐藤・道明） 5. 臨界ミセル濃度の測定（毛細管上昇法）（担当：佐藤・道明） 6. 界面活性剤の作用（浸透力、再湿潤力）（担当：佐藤・道明） 7. 界面活性剤の作用（乳化、分散）（担当：佐藤・道明） 8. 界面活性剤の作用（起泡、消泡）（担当：佐藤・道明） 9. 水質硬度の測定（担当：佐藤・道明） 10. 界面活性剤の分析（定性分析）（担当：佐藤・道明） 11. 洗浄試験（洗剤種類、洗剤濃度）（担当：佐藤・道明） 12. 洗浄試験（洗浄温度、洗浄時間）（担当：佐藤・道明） 13. 形態安定加工（担当：佐藤・道明） 14. 撥水加工（担当：佐藤・道明） 15. まとめ（担当：佐藤・道明） 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	佐藤希代子・道明伸幸著『服飾管理学実験 実験書』を授業時に配布する。 参考図書：片山倫子編著『衣の科学シリーズ 衣服管理の科学』建帛社 大野静枝・石井照子編著『衣生活の科学－衣生活論－』建帛社				
事前学習の内容	テキストプリントを読了しておくこと。				
事後学習の内容	「服飾管理学」テキストや講義ノートの確認。				
評 価 の 方 法 基 準	観察記録 (20%) 提出レポート (80%)				
履 修 上 の 注 意	「服飾管理学（1年次・前期）」を履修していることが望ましい。 実験に適した動きやすい服装・履物で受講すること。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	古濱 裕樹		
授 業 科 目	染色加工学		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 標 目	【授業の主題】 色は装飾の根幹となるが、染色とは繊維に色を付けることである。色がつくだけではなく、その色が堅牢性等の実用性能を持つことも重要である。染色の現象は、色素を繊維内部や表面に定着させることであり、科学的な理解が必要である。染色と加工を正しく理解するための講義である。 【到達目標】 染色の歴史や文化に加えて、科学的な理論や染色法も理解する。繊維製品の高機能化に貢献する種々の加工も、発現原理から知る。服飾関係者にとって重要なことである衣類のトラブル事例や繊維製品と健康や環境の関わりについても理解する。染料、染色、色に関する科学的理解を深め、その知識を社会や家庭生活等で自在に活用できる、質の高い社会人、生活者になる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 光と色 ～染色とは何か、色はなぜ見えるのか～ 2. 染色に必要な染料、薬剤、水 ～染料と顔料の違い、染料の歴史～ 3. 前処理工程 ～染色する繊維の準備について～ 4. 合成染料 (1) ～酸性染料、酸性媒染染料、含金属酸性染料、塩基性染料（カチオン染料）～ 5. 合成染料 (2) ～直接染料、反応染料、ナフトール染料～ 6. 合成染料 (3) ～建染染料、硫化染料、分散染料、酸化染料～ 7. 染色の現象と染色条件、および染色の方法 ～染色時の温度や液量が染まる濃さにおよぼす影響、様々な染色装置～ 8. 伝統染織 ～日本の各地で行われる伝統的な工芸染織～ 9. 天然染料 ～様々な天然染料の特徴～ 10. 変退色が起こる要因 ～なぜ色褪せるのかについての理解～ 11. 染色堅牢度 ～色褪せ、色移りのしやすさをはかる試験について～ 12. 色に関わるトラブル事例 ～服の着用や洗濯、保管などで起こるトラブルの原因と対処法～ 13. 染色の環境問題と安全性 ～染色廃水の問題や染料の毒性～ 14. 繊維加工 I ～外観、風合いを整える加工～ 15. 繊維加工 II ～機能を付与する加工～ 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『染色加工学』牛田智、(一社) 日本衣料管理協会				
事前学習の内容	初回授業日以降毎週、予習用のテキストと動画をクラスルームに掲載する。次回授業までに閲覧し、考察や質問を考え、クラスルームの質問課題に書き込む。				
事後学習の内容	授業後はクラスルームに掲載した確認テストに回答する。				
評 価 の 方 法 基 準	予習によるコメント記入 -毎回実施、全 15 回- (50%) 授業後の確認テスト -毎回実施、全 15 回- (50%)				
履 修 上 の 注 意	Google クラスルームと Meet によるリアルタイム型の遠隔授業となる。毎回、授業開始時刻までにクラスルームトップページから Google Meet に入室すること。Google クラスルームのクラスコード : mie4gqt				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	道明 伸幸		
授 業 科 目	服飾繊維学		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 アパレル企画、製造の現場をはじめ、消費者と接する販売、消費者相談の現場など、アパレルに関わるあらゆる立場において、繊維素材である高分子材料の特性に関する深い理解が要求される。この科目では繊維および高分子材料について学ぶとともに、それを通じて自然科学的な考えを身につける。 【到達目標】 本授業を通じて、服飾材料を扱うときさまざまな問題に出会い、また新しい素材に接したとき、自分自身でそれらを解明し、理解するための基礎的能力を養成する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 繊維とその仲間（高分子とその用途） 2. 物質の成り立ち（原子・分子、物質の状態、化学結合） 3. 糸の分子は糸のよう（分子構造と性質） 4. 糸のような分子を作る（高分子の合成） 5. ゴムとプラスチックと繊維（高分子材料、結晶と非晶） 6. 繊維の中にも結晶がある（結晶性高分子） 7. 硬いプラスチックもいつかは流れる（高分子の物性、粘弾性） 8. ゴムは不思議な物質（ゴム弾性） 9. 環境と高分子（リサイクル、生分解性繊維） 10. 天然繊維の種類と特性その1（植物繊維） 11. 天然繊維の種類と特性その2（動物繊維） 12. 化学繊維の種類・特性と製造その1（再生繊維、半合成繊維） 13. 化学繊維の種類・特性と製造その2（合成繊維） 14. 新しい繊維（新素材、ハイテク繊維） 15. まとめ・試験				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	島崎恒蔵 編著『衣服材料の科学[第3版]』 プリント				
事前学習の内容	事前にテキスト等の該当箇所をよく読んでおくこと。				
事後学習の内容	授業で配布したプリントやノートを見返して復習すること。				
評 価 の 方 法 基 準	試験 (80%) 質問・感想カード (20%)				
履 修 上 の 意 注	なし				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	道明 伸幸		
授 業 科 目	服飾繊維学実験		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実験	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 標 目	【授業の主題】 アパレル企画、製造の現場をはじめ、消費者と接する販売、消費者相談の現場など、アパレルに関わるあらゆる立場において、繊維に関する基礎知識は重要である。この科目では、実際に糸や布に触れ、その性質の基本的な測定法を体験する。 【到達目標】 基本的な測定法を体験することによって、繊維材料に対するより深い理解を得る。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 実験の心得（基本操作法、実験結果のまとめ方、レポートの書き方） 2. 糸の構造（織度） 3. 糸の構造（撚り、形態観察） 4. 布の構造（厚さ、目付、密度） 5. 繊維の鑑別（顕微鏡法、染色法） 6. 繊維の鑑別（溶解法） 7. 繊維の製造（1. ビニロンの紡糸） 8. 繊維の製造（2. アセタール化） 9. 布の構造（織組織） 10. 布の構造（糸密度） 11. 繊維の性質（引張試験） 12. 繊維の性質（応力緩和） 13. 繊維の性質（バイレック法、滴下法、浸せき法） 14. 繊維の性質（乾燥性） 15. レポート作成指導 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	島崎恒蔵 編著『衣服材料の科学[第3版]』 服飾繊維実験書（開始時に配布する。）				
事前学習の内容	事前に実験書、参考書等をよく読んで内容を把握しておく。				
事後学習の内容	参考文献等をよく読み、実験で得られた結果について考察し、レポートにまとめる。				
評 価 の 方 法 基 準	レポート（80%） 観察記録（20%）				
履 修 上 の 注 意	実験用白衣の着用				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	道明 伸幸		
授 業 科 目	服飾材料学		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 アパレルに関わるあらゆる立場において、服飾材料に関する基礎的および実用的知識が不可欠である。服飾材料の性質は服飾繊維学で学んだ繊維そのものの性質と、この科目で学ぶ繊維集合体としての性質によって決まる。この科目では繊維集合体としての糸や布の製造方法と、構造ならびに性質および消費性能を学びつつ、繊維アパレル業界における生産工程や品質管理などについても学ぶ。 【到達目標】 繊維製品を扱う上で関係する自然科学的現象を理解しつつ、繊維・アパレル産業に関する工学的視点を養う。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. はじめに（繊維集合体の構造と性質） 2. 糸の分類と構造 3. 布の分類と製造（織物） 4. 布の分類と製造（編物） 5. 布の分類と製造（不織布、皮革など） 6. 布の加工と構造 7. 被服材料の性能（保温性、通気性） 8. 被服材料の性能（吸水性、吸湿性） 9. 被服材料の性能（力学的性質） 10. 被服材料の性能（外観的性質、風合い） 11. 繊維製品の品質表示 12. 品質管理と品質保証 13. 繊維製品の試験法と消費者クレーム 14. アパレルと工学 15. まとめ・試験				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	島崎恒蔵 編著『衣服材料の科学[第3版]』 プリント				
事前学習の内容	事前にテキスト等の該当箇所をよく読んでおくこと。				
事後学習の内容	授業で配布したプリントやノートを見返して復習すること。				
評 価 の 方 法 基 準	試験（80%） 質問・感想カード（20%）				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	道明 伸幸		
授 業 科 目	服飾材料学実験		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実験	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 アパレルに関わるあらゆる立場において、糸や布などの服飾材料の特性は、衣服の取り扱いや快適性、審美性に影響する重要な要因である。本科目では実験を通してこれらを体験的に理解するとともに、繊維製品試験法の原理・測定方法・評価方法を学ぶ。 【到達目標】 実験を通して繊維製品の特性やその製造における品質管理など、実務に役立つ知識を体得する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 実験の心得（実験結果のまとめ方、レポートの書き方） 2. 糸の性能（強伸度・ヤング率） 3. 布の性能（破裂強度） 4. 布の性能（強伸度、破裂強度） 5. 布の性能（ピリング性） 6. 布の性能（耐摩耗性） 7. 布の性能（剛軟度） 8. 布の性能（プリーツ性） 9. 布の性能（ドレープ性） 10. 布の性能（通気度） 11. 布の性能（保温性） 12. 縫製試験（縫目滑脱性） 13. 縫製試験（縫い縮み率） 14. コンピュータによる着装シミュレーション（ヴァーチャルブティック） 15. コンピュータによる着装シミュレーション（動的シミュレーションとドレープ予測） 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	島崎恒蔵 編著『衣服材料の科学[第3版]』 服飾材料実験書（開始時に配布する。）				
事前学習の内容	事前に実験書、参考書等をよく読んで内容を把握しておく。				
事後学習の内容	参考文献等をよく読み、実験で得られた結果について考察し、レポートにまとめる。				
評 価 の 方 法 基 準	レポート（80%） 観察記録（20%）				
履 修 上 の 注 意	実験用白衣の着用				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	佐藤 希代子		
授 業 科 目	服飾人間環境学		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 快適な被服をデザインするためには、ヒトの生理的特徴、形態的特徴、運動的特徴、心理的側面等を知ることが重要であり、それらを学習することを目的とする。 【到達目標】 ヒトを衛生学的見地より学ぶことを目的とし、ヒトの生理的特徴、形態的特徴、運動的特徴、心理反応の知識と理解を深めることを目標とする。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 衣服の着用目的と機能 2. 体温調節反応－体温、皮膚温、平均皮膚温 3. 体温調節反応－産熱と放熱 4. 体温調節反応－不感蒸泄と発汗 5. 体温調節反応－皮膚の構造、皮膚感覚 6. 体温調節反応－温冷感と快適感 7. 温熱評価 8. 衣服気候－衣服材料と衣服気候 9. 衣服気候－衣服の保温性、衣服重量 10. 衣服圧の影響 11. 衣服の汚れ、皮膚障害 12. 静電気・磁気による影響 13. 身体の動き 14. 特殊服 15. まとめ・筆記試験				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	テキスト：田村照子編著『衣の科学シリーズ 衣環境の科学』建帛社 参考図書：日本家政学会被服衛生部会編『アパレルと健康』井上書院 大野静枝・石井照子編著『衣生活の科学－衣生活論－』建帛社				
事前学習の内容	テキストを読了しておくこと。				
事後学習の内容	テキストを参考に、授業ノートまとめ。 課題の取り組み。				
評 価 の 方 法 基 準	観察記録 (20%) 筆記試験 (80%)				
履 修 上 の 注 意	特になし				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	佐藤 希代子		
授 業 科 目	服飾人間環境学実験		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実験	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 標 目	【授業の主題】 快適な被服をデザインするためには、ヒトの生理的機能、形態、運動的機能、心理的側面等を知ることが重要である。この授業では、それらの基本的な測定法を学び、ヒトに対する基礎的な理解を得ることを目的とし、ヒトの形態や基本的な生理機能についての測定を行うとともに、温熱環境の測定等を通し、相互の生体反応の関係について学習する。具体的には、以下の項目に沿って実験を行う。 【到達目標】 ヒトの生理反応や心理反応に対する理解を深めることを目標とする。				
授 業 の 内 容 進 め 方	以下の計画に従って実験を行い、各実験についてレポートの提出を求める。 「実験 1」 環境温湿度の測定 「実験 2」 衣服重量の測定Ⅰ（クロー値） - 実験 1・2 の解説と実験 3～5 の説明 「実験 3」 皮膚温の測定Ⅰ（寒冷暴露） 「実験 4」 血圧の測定（姿勢変化、測定法の差異） 「実験 5」 生体計測Ⅰ（形態寸法と物との関わり） - 実験 3～5 の解説と実験 6～9 の説明 「実験 6」 心拍数の測定（運動負荷） 「実験 7」 心理学的測定法（一対比較法、評価尺度法、順位法） 「実験 8」 生体計測Ⅱ（姿勢変化） 「実験 9」 衣服重量の測定Ⅱ（季節変化） - 実験 6～9 の解説と実験 10～12 の説明 「実験 10」 衣服内温湿度の測定（衣服気候） 「実験 11」 風合いの測定（官能検査） 「実験 12」 皮膚温の測定Ⅱ（運動負荷） 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	佐藤希代子著『服飾人間環境学実験 手引書』を授業時に配布する。 参考図書：田村照子編著『衣の科学シリーズ 衣環境の科学』建帛社 日本家政学会被服衛生部会編「アパレルと健康」井上書院 斉藤秀子・呑山委佐子編著『快適服の時代』おうふう 鈴木浩明著『快適さを測る』日本出版サービス				
事前学習の内容	テキストプリントを読了しておくこと。				
事後学習の内容	「服飾人間環境学」テキストや講義ノートの確認。				
評 価 の 方 法 基 準	観察記録 (20%) 提出レポート (80%)				
履 修 上 の 注 意	「服飾人間環境学（1 年次・前期）」を履修していることが望ましい。 実験に適した動きやすい服装・履物で受講すること。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	佐藤 希代子		
授 業 科 目	服飾人間工学		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 快適な被服をデザインするためには、被服がヒトに与える影響を把握するとともに、ヒトの生体機能をより詳細に分析する必要がある。この授業では、生理学的側面を把握できる測定法について学習し、それらを基に、あらゆる側面から被服を評価する手法を学ぶ。 【到達目標】 以下の項目についての実験を実施し、自律神経機能の総合的な解析を行い、各実験についてレポートの提出を求める。これらを通し、ヒトの生体反応に対する理解を深めることを目標とする。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 基礎体温の測定 2. 体温について 3. 「実験 1」 体温の測定（運動負荷の差異） 4. 「実験 2」 体温の測定（被覆面積の差異） 5. 湿度に関わる温熱性の快適感について 6. 「実験 3」 皮膚血流および発汗量の測定（湿度の差異、運動負荷） 7. 心電図について 8. 「実験 4」 心電図の測定 9. 筋電図について 10. 「実験 5」 筋電図の測定（重さの影響－上肢） 11. 「実験 6」 筋電図の測定（運動負荷の影響－下肢） 12. 脳波について 13. 「実験 7」 脳波、眼球電図の測定（各種状況下） 14. 総合的な解析 15. まとめ・筆記試験				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	佐藤希代子著『服飾人間工学 プリント』を授業時に配布する。 参考図書：田村照子編著『衣の科学シリーズ 衣環境の科学』建帛社 日本家政学会被服衛生部会編『アパレルと健康』井上書院 斉藤秀子・呑山委佐子編著『快適服の時代』おうふう 鈴木浩明著『快適さを測る』日本出版サービス				
事前学習の内容	テキストプリントを読了しておくこと。				
事後学習の内容	「服飾人間環境学」講義ノートや使用テキストを参考にすること。 「服飾人間環境学実験 手引書」を参考にすること。				
評 価 の 方 法 基 準	観察記録（20%）、提出レポート（50%）、筆記試験（30%）				
履 修 上 の 意 注	「服飾人間環境学（1 年次・前期）」「服飾人間環境学実験（1 年次・後期）」を履修していることが望ましい。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	西田草介・安木啓晶・安田裕・松田広樹・武鏈篤志・福川太郎・田代裕希			
授 業 科 目	ファッション企画論		科目区分	専門科目	2 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2年次・後期	
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 この科目では、ファッション企画に特化して、繊維・ファッション関連の企業から講師を招き講義していただく。製品企画についての企業ポリシーおよび、企画立案から商品化までの具体的な過程や手法を知ること、より実践的なファッション企画の専門知識を身につける。 【到達目標】 ・ファッション企画への理解を深め、留意点をまとめられる。 ・商品を企画し、企画書を作成する。					
授 業 の 内 容 進 め 方	1. ジーンズの現場から ～個人の役割と業界のなりたち～ (西田草介) 2. 産業観光の現在 レポート発表 (西田草介) 3. 作業服メーカーで開発されている商品の事例 (安木啓晶) 4. 作業服の商品企画と営業企画 (安木啓晶) 5. オリジナル付属パーツの役割と種類 (安田 裕) 6. オリジナル付属パーツ企画時の留意点 (安田 裕) 7. 児島の繊維産業の歴史からジーンズが誕生するまで (松田広樹) 8. SNS を活用した商品企画及び販売（グループワーク） (松田広樹) 9. 倉敷の帆布生地製造業の歴史と素材の特徴、最終製品になるまでの手順・考え方 (武鏈篤志) 10. 帆布生地によるひとつのブランドを例に新製品が生まれるまでの企画の手順・考え方 (武鏈篤志) 11. トートバッグのプリントデザインの提出と評価 (武鏈篤志) 12. 児島産業振興センターの創業支援施設 「デザイナーズ インキュベーション (DI)」の紹介 (福川太郎) 13. 企画手順および事例紹介 (田代祐希) 14. 演習①（アイディアの思考と発想法） (田代祐希) 15. 演習②（商品企画） (田代祐希) 定期試験は実施しない 各教員の担当順は都合により変更することがある。					
実 務 経 験 を 活 か す 内 容						
テ キ ス ト 教 材	適宜プリントを配布。 『ジーンズソムリエ公式テキスト』 ジーンズソムリエプロジェクト事務局発行、『Betty Smith Movie “JEANS”』（動画） https://youtu.be/YSBhpmLGP0c 、『家庭用品品質表示法ガイドブック』、『9 割の社会問題はビジネスで解決できる』 著 田口一成 PHP 研究所 2021 年、ほか					
事前学習の内容	繊維・ファッション関連の企業のホームページを事前に見ておく。					
事後学習の内容	配布された資料、授業ノート等を使用して復習を行う。					
評 価 の 方 法 基 準	課題（100%）					
履 修 上 の 意 注	実務経験者による直接講義につき、是非多くの学生に履修してもらいたい。					

学 科	服飾美術科	担 当 教 員	久保 美沙登・光岡 美穂		
授 業 科 目	ファッションデザイン画		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 標	【授業の主題】 ファッションを感覚的に理解し、専門的に追求していく方法にファッションデザイン画がある。ファッションデザイン画とは衣服デザインのイメージを一枚の紙という空間の中に置き換える衣服製作のための設計図である。ここでは、人体のプロポーション、身体の角部位、ファッションアイテムなどの描写を身につける。 【到達目標】 本科目の学習を通して、既製品やプレタポルテの企画や製作、さらに高度化してマスコミ用の版下向けの仕事ができるようになることを到達目標とする。人体のプロポーション、テキスタイル素材の表現、彩色方法、表現力を身に着ける。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション、ファッションデザイン画とは (久保) 2. 人体プロポーション：女性正面プロポーション（八頭身の基本プロポーション）を描く (久保) 3. 人体プロポーション：女性正面・片脚重心の基礎プロポーション (久保) 4. 人体プロポーション：身体の部分の描き方：(1)女性の顔の描き方(2)ヘアースタイルの基本 (久保) 5. ボディーパーツの描き方：身体の部分の描き方 手の描き方、腕の描き方 (久保) 6. コスチュームの描き方1 (久保) 7. コスチュームの描き方2 (久保) 8. 着装クロッキー1（鉛筆、マーカー、パステル） (久保) 9. 着装クロッキー2（色鉛筆、水彩） (久保) 10. テキスタイルの描き方 (久保) 11. 課題提起・制作 1 マンダラチャートから描くデザイン画 (光岡) 12. 課題提起・制作 2 テイストミックスのデザイン画 (光岡) 13. 課題提起・制作 3 過去の流行を現代に落とし込むデザイン画 (光岡) 14. 課題提起・制作 4 オーダージーンズのデザイン画 (光岡) 15. 作品講評、ポートフォリオの編集・提出 (光岡) 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	高村是州著『ファッションデザイン画ビギナーズ超速マスター』グラフィック社				
事前学習の内容	スタイル画の学習は週に一回の授業中に描くだけでは、到達目標に達する作品を描けるようになるのは難しいため、空き時間にでも手を動かし、デッサンの練習をすること。				
事後学習の内容	1～10 回は課題が遅れている場合は、授業時間外に進めておくこと。 11～14 回は各回の課題提起について自分なりの考えをまとめ、デザイン画に落とし込み、翌週の授業までに仕上げてくること。				
評 価 の 方 法 基 準	課題提出・ポートフォリオ（ただし課題の8割以上の提出のこと）(70%)、プレゼンテーション(20%)、ミニレポート（10%）の総合評価				
履 修 上 の 注 意	授業時に、テキスト、準備物を持参。 課題はクリアブックにファイルし、ポートフォリオとして就職活動などに活用すること。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	岩崎 之勇・大原 啓市・田鹿 紘		
授 業 科 目	ビジネス基礎		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 ビジネスに求められる Office 活用術を修得する。 ビジネス実行に必要な不可欠な財政、税金、金融の基礎的事項を理解する。 ビジネスに関わる知的財産権の理解を深め、知識を修得する。 【到達目標】 ・マイクロソフト オフィス スペシャリスト (MOS) を受験できるようにする。 ・金融、税金、年金等に関する基礎的なリテラシーを修得する。 ・知的財産権に関する法律の基礎を理解修得する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. ワードによるビジネス文書作成 (差込印刷) (担当: 大原) 2. エクセルによるデータベース活用 (VLOOKUP 関数) (担当: 大原) 3. マイクロソフト オフィス スペシャリスト (MOS) ワード模擬試験 (担当: 大原) 4. マイクロソフト オフィス スペシャリスト (MOS) エクセル模擬試験 (担当: 大原) 5. 地域を知るための調査方法 (担当: 田鹿) 6. 地域を知るための文献資料調査 (担当: 田鹿) 7. 地域を知るための統計データ (担当: 田鹿) 8. 地域に関する論文・レポートの書き方 (担当: 田鹿) 9. 日本の財政についての話 (担当: 岩崎) 10. 知っておきたい税務知識 (担当: 岩崎) 11. 家計管理とライフプランニング (担当: 岩崎) 12. 資産形成の方法 (担当: 岩崎) 13. デザイナーのための知的財産法 (担当: 岩崎) 14. デザインを守るには～意匠法の世界 (担当: 岩崎) 15. 著作物を守るには～著作権法の世界 (担当: 岩崎) 定期試験は実施しない。				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	【参考書】『リファレンス動画付き!実践ドリルで学ぶ Office 活用術 演習問題全 173 題』noa 出版 (著、編集)				
事前学習の内容	予め各授業回のテーマに沿った下調べを各自行うこと。				
事後学習の内容	各回授業で配った資料類を復習する。				
評 価 の 方 法 基 準	提出課題レポートの記載内容(80%)、授業中の履修に対する積極姿勢(20%)により評価する。				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	田鹿 紘			
授 業 科 目	経済学入門			科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期	
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 消費は我々の日常生活の中心となるもので、それ無しには生活することができない。また、社会人となった場合には消費者に対して製品を提供する側となる。この講義では消費に関する問題を学ぶ上で必要な経済理論や時事問題を学んでいく。またできるだけ現実的な事例を多く用いながら解説を行っていく。 【到達目標】 身近な現象を需要曲線と供給曲線を用いて説明するための基礎的な知識を有している。少子化、高齢化、グローバル化が経済に与える影響についての知識を有しており、対応策について説明することができる。					
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 経済学とはどのような学問か 2. 効率と公平 3. 希少性と資源分配 4. 需要曲線 5. 供給曲線 6. 均衡、弾力性 7. 曲線のシフトと均衡の変化(1)理論の説明 8. 曲線のシフトと均衡の変化(2)作図の練習 9. 売り手と買い手の情報格差 10. 人口構造の変化と経済 11. 高齢社会と経済・社会保障 12. 為替レートと貿易 13. グローバル化と消費経済 14. 経済政策 15. 授業全体のまとめ・試験					
実 務 経 験 を 活 か す 内 容						
テ キ ス ト 教 材	テキストは使用しない。プリントを配布する。 【参考文献】 関谷喜三郎・高木聖『楽しく学ぶ消費経済』創成社 伊ヶ崎大理・大森達也・佐藤茂春・内藤徹『スタートダッシュ経済学』勁草書房					
事前学習の内容	経済に関する新聞記事に目を通しておく。事前に指示した内容について参考書や web で調べ、概要を把握しておく。					
事後学習の内容	講義ノートや配布資料を見直し、知識を整理する。また、アイデアをノートにまとめておく。					
評 価 の 方 法 基 準	期末試験 (80%) 不定期で実施する小テスト・小課題の達成度 (20%)					
履 修 上 の 注 意						

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	岩崎 之勇（実務経験あり）		
授 業 科 目	経営学入門		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 経営学に関する基礎的研究、及び経営学に関する基礎的事例研究について理解する。具体的には、企業の経営戦略、経営管理、人的資源管理、会計・財務、生産・研究開発、マーケティングなどの主要論点を学ぶ。 【到達目標】 ・経営学の全体像を理解する。 ・経営学で用いられる基本的用語を理解する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 授業概要・ガイダンス 会社の経営とは 2. 経営戦略(1) 会社はどのような方針で動くのか 3. 経営戦略(2) 会社はどんな仕組みで動いているのか 4. 経営戦略(3) 会社はどう競争するのか 5. マーケティング(1) 会社はどのようにモノを売るのか 6. マーケティング(2) 会社はどのように市場を理解するのか 7. 経営管理と組織(1) 会社はどのように管理されるのか 8. 経営管理と組織(2) 会社はどのような組織なのか 9. 人的資源管理(1) 社員はなぜ働くのか 10. 人的資源管理(2) 社員はどのように報酬を求めるのか 11. 生産管理 会社はどのようにモノを生産するのか 12. 製品開発 会社はどのように製品を開発するのか 13. 会計 会社はカネをどう管理するのか 14. 企業倫理 会社はどんな社会的責任があるのか 15. まとめ・試験 これまでの授業内容				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	一般企業での実務経験を活かし、上記授業内容に関して実業界での具体的な応用例など、仕事現場での「リアル」に重点を置いた実践的教育を行います。				
テ キ ス ト 教 材	井原久光（編）2016、『経営学入門・キーコンセプト』ミネルヴァ書房				
事前学習の内容	授業の中で、特に調べてくる事項についての調査を求める場合がある。				
事後学習の内容	各回授業で進んだ教科書範囲、配った資料類を復習する。				
評 価 の 方 法 基 準	試験(80%)と中間レポート(20%)により評価する。				
履 修 上 の 意 注	理解を助ける上で、マーケティング論（1 年次・後期）を併せて受講するのが好ましい。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	岡邑 祐樹		
授 業 科 目	法学入門		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 この授業では、法学の主たる分野について、具体的な事例等を通じて、法律及び裁判等の制度の仕組みについて理解する。 【到達目標】 学生は、現代日本の法学についての基本的理解を通じて、知識のみならず、実社会の中での個別な問題解決能力を身につける。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 法学とは何か 刑法の基礎① 犯罪と刑罰 2. 法学とは何か 刑法の基礎② 罪刑法定主義と犯罪の構成 3. 刑事訴訟法の基礎① 捜査から公判及び略式手続や少年審判など諸手続 4. 刑事訴訟法の基礎② 裁判傍聴 5. 民法 不法行為の基礎① 刑事と民事の違い及び保険制度 6. 民法 不法行為の基礎② 損害賠償の要件等 7. 民法 契約法の基礎① 私的自治と契約 8. 民法 契約法の基礎② 私的自治の例外及び債務不履行の救済 9. 労働法の基礎 労働法と生存権 10. 会社法の基礎 会社の存在及び仕組み 11. 民法 家族法の基礎① 親子の関係 12. 民法 家族法の基礎② 結婚と離婚 13. 憲法 統治機構の基礎 憲法と法律 14. 憲法 基本的人権の基礎 15. 著作権法の基礎 弁護士業務の紹介 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	<テキスト>：『はじめての法律学〔第6版〕』、松井茂記・松宮孝明・曾野裕夫編、有斐閣 <参考書等>：小型の六法（もしあれば、どれでもよい） 適宜、レジュメ・資料を配付する。				
事前学習の内容	毎回、テキストの該当部分を予習する。9、10、15 講はテキストに該当箇所がないので、事前にレジュメ・資料を配布するので、これを予習する。				
事後学習の内容	テキストやレジュメを適宜読み直して復習するとともに、2 回レポートを提出する。				
評 価 の 方 法 基 準	中間レポート（30%）、最終レポート（50%）、小テスト（20%）				
履 修 上 の 意 注	第 4 講の裁判傍聴は、岡山地方裁判所にて行う予定である。教員・学生の日程調整等の結果、ほかの授業と順番が前後する可能性がある。なおこの場合、現地集合現地解散で必要経費が発生する場合は履修者負担とする。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	増子 和起		
授 業 科 目	簿記論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 標	【授業の主題】 日常生活に関わるお金の収入や支出、貯金額を管理していくには、しっかりと家計簿をつけることが有効ですが、それと同じように、企業でも収入や支出や貯金などお金のことを記録して管理するのがとても重要です。家計簿とは違って、会社の書類は誰が読んでも分かることが必要ですから、記録の方法があらかじめ決まっています。その記録の方法が、この講義で学ぶ「簿記」というものです。つまり、簿記を学んでいくと、会社のお金に関する書類を作成できるようになります。それだけでなく、勉強を進めていくと、どこか別の会社の書類を読み解いて、その会社が儲かっているかどうかなどを調べることもできるようになります。 【到達目標】 学生が簿記の基本的な考え方を身に付け、実際に記帳できるようになることである。				
授 業 の 内 容 方 進 め 方	【授業の概要及び授業の進め方】 はじめて簿記を学ぶ人を想定して簿記の基本を中心に講義します。簿記とはそもそも何なのか、何のために簿記を学ぶのか、簿記と会計との関係はどうなっているか、などの基礎の基礎から出発し、最終的には試算表という会社のお金に関する書類（簡単なもの）を作成するところまでを対象に勉強を進めていきます。2017 年からスタートした「日商簿記初級試験」の参考書をテキストとして、毎回の講義で解説を加えながら読み進め、練習問題を一緒に解くことで上記の授業目標を達成できるようにします。試験では、テキストの内容すべてを対象として、知識が身についているか、書類を作成できるかを確かめていきます。 【授業内容】 1. 簿記とは何か：簿記の意義、簿記と会計の関係を学びます。 2. 簿記のルール：取引と仕訳、及び資産、負債、資本、収益、費用の意味を学びます。 3. 簿記の基礎：仕訳を実際に行なってみます。 4. 商品売買：商品売買に関する仕訳を学びます。 5. 現金・預金：現金・預金及び小切手などの現金同等物に関する仕訳を学びます。 6. 手形と電子記録債権：約束手形及びインターネットを利用した債権・債務に関する仕訳を学びます。 7. 貸付金・借入金：お金の貸し借りに関する仕訳を学びます。 8. その他の取引(1)：未払金・未収金といった債権・債務に関する仕訳を学びます。 9. その他の取引(2)：立替金・預り金・消耗品に関する仕訳を学びます。 10. 固定資産：店舗や事務所、トラックなどの長期的に使うものに関する仕訳を学びます。 11. 租税公課と消費税・資本金：税金及び資本金に関する仕訳を学びます。 12. 帳簿への記入(1)：仕訳帳と総勘定元帳への記入を学びます。 13. 帳簿への記入(2)：試算表の作成方法について学びます。 14. 伝票と仕訳日計表：伝票会計を学びます。 15. これまでの総復習及び試験：講義の中から身に付けておくべきポイントをおさらいします。 【ICT 活用】 ・Google Class Room を使って講義資料を配布するとともに受講者からの質問を受け付けます。 ・Google Class Room に講義動画を掲載します。復習用の教材として役立ててください。 【備考】 本講義の講義内容を十分に理解すれば、日本商工会議所が実施している民間資格である「日商簿記初級試験」に合格できる程度の力が身につきます。日商簿記初級試験は履歴書の資格欄に書ける資格ですし、上位級である日商簿記試験 3 級・2 級・1 級と自分の力の足掛かりとすることができる試験です。簿記を理解して就職活動に活かしたい人は積極的に試験を受けることを推奨します。				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	【テキスト】滝澤ななみ・TAC 出版開発グループ 2019『スッキリわかる 日商簿記初級 第3版』TAC 出版。ISBN-10: 4813287360 ※ 2024 年 12 月時点の情報です。最新版を購入してください。 【参考書・参考資料等】適宜授業の際に紹介します。				
事前学習の内容	テキストの該当箇所について読んで概要を理解してください。				
事後学習の内容	各回の講義後演習問題に取り組んでください。該当箇所は毎回の講義で指示します。				
評 価 の 方 法 基 準	授業内課題(60%)：授業の最後にその回で学んだ簡単な振返り課題を提出してもらいます（5 分程度）。試験(40%)：最終講義で授業の主題で掲げる目標を達成できたかを確認するためにテストを実施します。				
履 修 上 の 注 意	本科目では毎回の講義で電卓を利用します。安価なもので構わないので準備してください。スマートフォンに搭載されている電卓機能は講義中利用不可です。ご注意ください。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	岩崎 之勇（実務経験あり）		
授 業 科 目	マーケティング論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 標 目	【授業の主題】 マーケティングに関する基礎的研究、およびマーケティングに関する基礎的事例研究について学ぶ。 【到達目標】 ・マーケティングに関する基本的な知識を理解する。 ・会社組織のマーケティングの役割を理解する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 授業概要・ガイダンス マーケティングとは 2. 顧客価値と顧客満足 顧客価値および顧客満足の考え方 3. 戦略マーケティング 競争及び戦略への取り組み 4. STP 市場細分化の考え方 5. マーケティング・リサーチ 市場調査方法の考え方 6. 消費者行動 顧客ニーズを高める方法 7. 製品戦略 製品開発の考え方 8. 価格戦略 価格の設定方法 9. 流通戦略 流通業者の取り組み 10. プロモーション戦略 プロモーション手段の特徴 11. マーケティング・コミュニケーション コミュニケーションとは 12. サービス・マーケティング サービス業におけるマーケティング 13. ブランド戦略 ブランドの重要性和ブランド価値 14. ソーシャル・マーケティング 非営利組織のマーケティング 15. まとめ・試験 これまでの授業内容を振り返りと試験の実施				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	一般企業での実務経験を活かし、上記授業内容に関して実業界での具体的な応用例など、仕事現場での「リアル」に重点を置いた実践的教育を行います。				
テ キ ス ト 教 材	草野基雄、2017、『入門・マーケティング論（第5版）』八千代出版				
事前学習の内容	授業の中で、特に調べてくる事項についての調査を求める場合がある。				
事後学習の内容	各回授業で進んだ教科書範囲、配った資料類を復習する。				
評 価 の 方 法 基 準	試験(80%)と中間レポート(20%)により評価する。				
履 修 上 の 注 意	理解を助ける上で、消費者行動論（1 年次・後期）を併せて受講するのが好ましい。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	岩崎 之勇		
授 業 科 目	消費者行動論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 人々が様々な場面でどのような消費行動をとっているかを理解し、消費者行動に基づいた企業によるマーケティング上の工夫について学ぶ。 【到達目標】 ・消費者の消費行動の全体像を理解する。 ・消費者の消費行動に関する基本的研究を理解する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 授業概要・ガイダンス 消費者行動とは 2. 知覚 3. 学習 4. 記憶 5. 態度 6. 意思決定 7. セグメンテーション 8. コミュニケーション 9. 店頭マーケティング 10. アイデンティティ 11. 家族 12. 集団 13. ステイタス 14. サブカルチャー 15. まとめ・試験				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	松井剛他著（2020）『1からの消費者行動<第2版>』碩学舎				
事前学習の内容	授業の中で、特に調べてくる事項についての調査を求める場合がある。				
事後学習の内容	各回授業で進んだ教科書範囲、配った資料類を復習する。				
評 価 の 方 法 基 準	試験(80%)と中間レポート(20%)により評価する。				
履 修 上 の 意 注	理解を助ける上で、マーケティング論（1年次・後期）を併せて受講するのが好ましい。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	岩崎 之勇		
授 業 科 目	ファッションビジネス		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 アパレルに関する商品企画の視点から、これらに関する基礎的事項、および実例について学ぶ。 【到達目標】 ・マーケティングプロセスに従い服飾企画を中心にファッションビジネス全体を理解する。 ・製品政策、売場政策、プロモーション政策、価格政策を理解する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 授業概要・ガイダンス 服飾企画とは 2. 戦略的マーケティングの展開 3. 戦略的マーケティングの進め方 4. アパレル市場機会の分析 5. 消費者市場の分析 6. 新しいマーケティング目標の設定 7. 標的市場の選定 8. 製品政策の企画（マーケティング・ミックス） 9. 製品政策の企画（商品に関する要素と仕組み） 10. 売場政策の企画 11. 販売促進政策の企画 12. 価格政策の企画 13. マーケティングの実施と結果の点検 14. ファッションビジネス全体について 振り返り 15. まとめ・試験				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	日本ファッション教育振興協会（2020）『ファッションビジネス（Ⅱ）』				
事前学習の内容	授業の中で、特に調べてくる事項についての調査を求める場合がある。				
事後学習の内容	各回授業で進んだ教科書範囲、配った資料類を復習する。				
評 価 の 方 法 基 準	試験(80%)と中間レポート(20%)により評価する。				
履 修 上 の 意 注	なし				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	岩崎 之勇		
授 業 科 目	マーケティング戦略論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	2 年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 マーケティング戦略に関する基礎研究、および事例研究について学ぶ。 【到達目標】 ・マーケティング戦略に関する基礎研究を理解する。 ・マーケティング戦略に関する事例を理解する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 授業概要・ガイダンス マーケティング戦略とは 2. 競争戦略、 および事例研究 (1) 3. セグメンテーションとターゲティング、 および事例研究 (2) 4. ポジショニング、 および事例研究 (3) 5. 消費者行動、 および事例研究 (4) 6. マーケティング・リサーチ、 および事例研究 (5) 7. 新製品開発、 および事例研究 (6) 8. 価格戦略、 および事例研究 (7) 9. 流通戦略、 および事例研究 (8) 10. マーケティング・コミュニケーション戦略、 および事例研究 (9) 11. ブランド戦略、 および事例研究 (10) 12. サービス・マネジメント、 および事例研究 (11) 13. 経験価値マーケティング、 および事例研究 (12) 14. リレーションシップ・マーケティング、 および事例研究 (13) 15. まとめ・試験				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	青木幸弘他、2015、『ケースに学ぶマーケティング』有斐閣ブックス				
事前学習の内容	授業の中で、特に調べてくる事項についての調査を求める場合がある。				
事後学習の内容	各回授業で進んだ教科書範囲、配った資料類を復習する。				
評 価 の 方 法 基 準	試験(80%)と中間レポート(20%)により評価する。				
履 修 上 の 意 注	理解容易を図るために、マーケティング論 (1 年次・後期) を予め受講しておくのが好ましい。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	岩崎 之勇		
授 業 科 目	消費者調査法		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 消費者の行動の実態や意識を把握するためには何らかの調査が必要である。調査を実際に体験することで、消費者調査を正しく行うための知識とその実践法を学ぶ。 【到達目標】 ・消費者調査の基本的方法論を理解する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 消費者調査法とは 2. 消費者調査法の種類と方法 3. 調査票の作成 4. 調査対象者の選び方（標本調査・標本抽出法） 5. 集計と分析 6. 衣料の諸費実態調査 7. 総合演習（質問紙調査） 8. グループ分けおよび調査内容の立案 9. 予備調査票の作成および相互実施（プレゼン①） 10. 本調査票の作成および実施 11. 調査の集計と分析 データ入力および統計処理 12. 調査報告資料の作成 目的・方法 13. 調査報告資料の作成 分析と結果 14. 発表会・反省検討会（プレゼン②） 15. 報告書の添削とディスカッション 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	日本衣料管理協会刊行委員会編（2004）『新版・消費者調査法』（社）日本衣料管理協会				
事前学習の内容	エクセルによる基本統計量の計算をできるようにしておくこと。				
事後学習の内容	各回授業で進んだ教科書範囲、配った資料類を復習する。				
評 価 の 方 法 基 準	2 回の中間プレゼンテーション内容（50%）、最終報告書内容（50%）				
履 修 上 の 意 注	理解を助ける上で、マーケティング論（1 年次・後期）を履修していることが好ましい。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	田鹿 紘		
授 業 科 目	地域産業論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	2 年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 本講義では地域産業について理解・考察するための経済学的な理論について学ぶ。経済学的な理論のみならず、理論に関する事例もあわせて学び、具体的・実践的に地域産業について理解し、考察をしていくことにする。 【到達目標】 地域産業を考察するための理論を身につけている。地域産業の現状と問題点についての知識を有している。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 日本の産業構造 2. 日本経済・地域経済の概観 3. 比較優位と分業 4. 企業の立地 5. 都市システム 6. 産業集積 7. 産業集積の衰退と再生 8. 地場産業の活性化 9. 商業の再生戦略 10. 外部経済と産業の誕生 11. 観光産業と地域経済 12. 観光振興の事例 13. 中小企業と地域産業 14. 産業立地政策の変遷 15. 授業全体のまとめ・定期試験				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	テキストは使用しない。プリントを配布する。 【参考文献】 山崎朗他（2016）『地域政策』中央経済社 奥山雅之（2021）『BASIS 地域産業論－産業の立地と集積－』清明書院				
事前学習の内容	地域経済と産業に関する新聞記事に目を通しておく。事前に指示した内容について調べ、概要を把握しておくこと。				
事後学習の内容	講義ノートや配布資料を見直し、知識を整理すること。				
評 価 の 方 法 基 準	試験（100%）				
履 修 上 の 注 意	ある程度の経済学の知識を前提としている。経済学入門、基礎経済学、経済政策論の経済学系の科目を履修済み、もしくは履修中であることが望ましい。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	田鹿 紘		
授 業 科 目	まちづくり論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 まちづくりとは、地域が直面している課題を発見し、その解決に取り組み、地域の活力や魅力を高めていくことである。本講義では、まちづくりの概念、まちづくりを取り巻く経済的な環境、まちづくりの進め方などを事例とともに解説をしていく。 【到達目標】 まちづくりの現状と課題についての知識を有している。他の地域の事例や諸概念を用いながら身近な地域のまちづくりについてのアイデアを提示することができる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. まちづくりとは 2. 日本経済・地域経済の概観 3. 地方自治と住民 4. 防災とまちづくり 5. 少子高齢社会におけるまちづくり(1) 少子化 6. 少子高齢社会におけるまちづくり(2) 高齢化 7. 農業とまちづくり 8. 観光とまちづくり 9. スポーツとまちづくり 10. コンテンツを用いた地域振興の考え方 11. コンテンツを用いた地域振興の事例（日本・外国） 12. 金沢の事例(1) 交通経済・文化的景観 13. 金沢の事例(2) コンテンツと地域振興 14. 倉敷市のまちづくりの可能性 15. 授業全体のまとめ・今後のまちづくりの展望 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	テキストは使用しない。プリントを配布する。 【参考文献】 山崎義人他（2021）『はじめてのまちづくり学』学芸出版会 岡田知弘（2023）『13 歳から考えるまちづくり』かもがわ出版				
事前学習の内容	まちづくりに関する新聞記事に目を通しておく。事前に指示した内容について調べ、概要を把握しておくこと。				
事後学習の内容	講義ノートや配布資料を見直すとともに、紹介した概念や事例を倉敷市でも応用可能であるかを考え、アイデアや課題についてまとめておくこと。				
評 価 の 方 法 基 準	期末レポート（80%） 不定期で授業中に実施する小課題の達成度（20%）				
履 修 上 の 注 意					

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	田鹿 紘		
授 業 科 目	経済政策論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 本講義では経済学で学んだ知識を踏まえながら、国民所得、政府による経済政策の効果や政策に関する課題について考えていく。 【到達目標】 ・日本の財政・社会保障制度の現状と課題に関する知識を有している。 ・経済政策の効果について単純なモデルを用いて分析することができる。 ・少子高齢社会における経済成長に関する政策について現状をもとに一案を提示することができる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 経済政策とは 2. 国内総生産 3. 三面等価 4. 総需要と総供給 5. 財政政策(1) 財市場 6. 財政政策(2) 財政政策の効果 7. 財政政策(3) 租税と公債 8. 社会保障政策(1) 社会保障の4つの柱 9. 社会保障政策(2) 公的年金 10. 社会保障政策(3) 公的医療保険 11. 社会保障政策(4) 高齢化と公的介護保険 12. 文化経済政策(1) クールジャパン、クリエイティブ産業の概要 13. 文化経済政策(2) 地域活性化とコンテンツツーリズム 14. 文化経済政策(3) 課題と展望 15. まとめ、試験				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	【テキスト】 使用しない。プリントを配布する。 【参考文献】 伊ヶ崎大理・大森達也・佐藤茂春・内藤徹『スタートダッシュ経済学』勁草書房 【参考文献】 山田久・半谷俊彦『これだけはおさえたい経済学 学びのガイダンス』実教出版 【参考文献】 小塩隆士『コア・テキスト財政学 (第2版)』新世社				
事前学習の内容	地域経済と産業に関する新聞記事に目を通しておく。事前に指示した内容について調べ、概要を把握しておくこと。				
事後学習の内容	講義ノートや配布資料を見直し、知識を整理すること。				
評 価 の 方 法 基 準	試験 (100%)				
履 修 上 の 意 注	経済学入門を履修済み、もしくは履修中であることが望ましい。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	趙 採沃		
授 業 科 目	現代アート&デザイン史		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 アート&デザインの概念や、歴史を理解する。 現代における時代的・文化的重要事柄などを絡み合いながら概観する。 今後のアートとデザインのあり方を思索していく。 【到達目標】 ・デザインとアートの変遷を理解すること。 ・課題探求を通じて各自のアート&デザインについての概念をもつこと。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション 2. 近代のまとめ①（アーツ&クラフツ運動以降から） 3. 近代のまとめ②（近代の視覚的イメージ） 4. アメリカのインダストリアル・デザイン 5. ヨーロッパの現代デザイン 6. アメリカの現代デザイン 7. 日本の現代デザイン 8. まとめ（1）プレゼンテーション 9. 現代アート①（1917 年～1970 年） 10. 現代アート②（1980 年代～2000 年） 11. 現代アート③（2000 年以降） 12. サブカルチャーとアート 13. テクノロジーとアート 14. 日本のアーティスト 15. まとめ（2）レポート作成 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『増補新装 カラー版 世界デザイン史』阿部公正監修、美術出版社、2012） 必要に応じて資料配布および作品・著書紹介。				
事前学習の内容	クラスルームから事前配布資料を読み、概要を把握しておくこと。				
事後学習の内容	授業の概要を整理したノートを読み直す。レポート課題などを作成する。				
評 価 の 方 法 基 準	プレゼンテーション（60%）、レポート（40%）				
履 修 上 の 意 注	積極的に、質問すること。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	趙 採沃		
授 業 科 目	アート造形技法演習Ⅰ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 マルセル・デュシャン以降、現代アートについての理解を深める。 現代環境の変化と表現に対する洞察力や、柔軟な思考力を育む。 現代アートの制作手法について作品制作を通じて模索する。 【到達目標】 ・現代におけるアート技法に関する知識や技術、応用力を身に付ける。 ・様々な造形技法を試しながら自らのアートコンセプトによる創作へと発展させる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション 2. レディメイド (Ready-made) としてのアートを理解する。 3. レディメイドとアート 作品の発想 4. レディメイドとアート 企画 5. レディメイドとアート 制作 6. レディメイドとアート プレゼン 7. ジャンク (Junk) とアートとの関わりを理解する。 8. ジャンクとアート 作品の発想 9. ジャンクとアート 企画 10. ジャンクとアート 制作 11. ジャンクとアート プレゼン 12. 複製技術としてのアートを理解する。 13. 複製技術とアート 作品の発想 14. 複製技術とアート 企画と制作 15. 複製技術とアート プレゼン 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『インスタントアート』(福島 豊彦、現代書館、1985) 必要に応じて資料配布				
事前学習の内容	事前配布資料を読み、制作に関する概要を把握しておくこと。				
事後学習の内容	授業の課題制作と、小レポートで提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	作品 (70%)、プレゼンテーション (30%)				
履 修 上 の 意 注	積極的に、プレゼンに取り組むこと。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	趙 採沃		
授 業 科 目	アート造形技法演習Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 アート造形技法演習Ⅰを踏まえて現代アートにおけるイメージをさらに発展させる。現代におけるイメージとアート表現との関わりを理解する。身の周りのものことについての洞察力や、柔軟な思考力を育む。 【到達目標】 ・イメージに関する各自の制作手法を発掘すること。 ・独自の表現方法を通じて自らの作品制作が遂行できること。 ・アート表現としてのイメージの多様な媒体による操作技術とその応用力を身に付ける。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション 2. イメージとアート 3. 静止画像(still image)における作品の発想 4. 静止画像作品 ①企画 5. 静止画像作品 ②制作（下地準備） 6. 静止画像作品 ③制作（彩色） 7. 静止画像作品 ④プレゼン 8. イメージの増殖 ①企画 9. イメージの増殖 ②制作 10. イメージの増殖 ③プレゼン 11. モーション・イメージ(motion image)における作品の発想 12. モーション・イメージ ①企画 13. モーション・イメージ ②制作 14. モーション・イメージ ③修正および編集 15. モーション・イメージ ④プレゼン 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『インスタントアート』（福島 豊彦、現代書館、1985） 必要に応じて資料配布				
事前学習の内容	事前配布資料を読み、概要を把握しておくこと。				
事後学習の内容	授業中のノートを見直すとともに、問題の解答と授業内容の要約を、各回で課す小レポートで提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	作品（70%）、プレゼンテーション（30%）				
履 修 上 の 意 注	積極的に、プレゼンに取り組むこと。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	趙 採沃		
授 業 科 目	現代芸術造形論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	2 年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 現代アート&デザイン史を踏まえてアート&デザインにおける造形について理解する。 現代芸術および造形についての知見を広げるために造形の変遷を理解する。 造形の原理、造形の秩序などの形に関する基本概念を理解する。 21 世紀以降デジタルや IT 技術の発展に伴う、様々な新たな芸術の誕生を取り上げる。 【到達目標】 ・ 講義とそれぞれの課題探求とプレゼンテーションを通じて各自の芸術に対する造形論などの見解をもつ。 ・ 各自の観点から興味のある現代作家研究を通じて現代造形や芸術に関する概念を理解すること。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション 2. 形を見る 3. デフォルメの美学・アジアの形 4. モダニズム 5. ポスト・モダン以降 6. 空間構成 7. 複雑な形美ほか 8. 運動および光の形 9. テクノロジーと造形 10. 映像およびワイヤーフレーム 11. 現代作家造形研究 12. 現代作家芸術論研究 13. プレゼン①（課題収集） 14. プレゼン②（課題抽出） 15. プレゼン③（課題のまとめとプレゼン） 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『形とデザインを考える 60 章』（三井秀樹、2001、平凡社） 必要に応じて資料配布および作品・著書紹介。				
事前学習の内容	事前配布資料を読み、概要を把握しておくこと。				
事後学習の内容	授業中のノートを見直すとともに、問題の解答と授業内容の要約を、各回で課す小レポートで提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	レポート（50%）、プレゼンテーション（50%）				
履 修 上 の 意 注	積極的に、プレゼンに取り組むこと。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	田中 孝明（実務経験あり）		
授 業 科 目	テキスタイルデザインⅠ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 基本的なデザイン展開の能力を養い、テキスタイルデザインにおける表現力や想像力を養う。学生各自の発想に発展性を持たせるように努力することと、それらの基礎的表現技法を演習によって発展、展開させる。テキスタイル（繊維素材）を用いたデザイン展開及び造形表現を修学する。 【到達目標】 ・ 学生はテキスタイル素材を用いた造形表現方法を体験し、知ることができる。 ・ 学生はテキスタイル造形表現の可能性を遂行する。				
授 業 の 内 容 方 進 め 方	各自のイメージやメッセージを伝達する方法として、基本となる造形の要素の構成及び色彩による表現等の理論と演習による基礎実技に重きを置く。 授業進行手順 1. ガイダンス、繊維素材を用いてのテクスチャー制作課題1 試作 2. 繊維素材を用いてのテクスチャ制作課題1（制作） 3. 繊維素材を用いてのテクスチャ制作課題1（展開） 4. 繊維素材を用いてのテクスチャ制作課題1（仕上げ） 5. 繊維素材を用いてのテクスチャ制作課題1 講評会 6. 繊維素材を用いてのテクスチャ制作課題2（アイデア出し） 7. 繊維素材を用いてのテクスチャ制作課題2（制作） 8. 繊維素材を用いてのテクスチャ制作課題2（仕上げ） 9. 繊維素材を用いてのテクスチャ制作課題2 講評会 10. 色彩演習課題制作（アイデア出し） 11. 色彩演習課題制作（下描き） 12. 色彩演習課題制作（色彩計画） 13. 色彩演習課題制作（仕上げ）、シルクスクリーン制作（製版） 14. シルクスクリーン制作（プリント） 15. 色彩演習課題・シルクスクリーン制作講評会 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	企業における商品開発の実務経験を活かし、色彩計画、デザイン作成に関しての実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	参考図書：『the elements of design』 資料を配布する。				
事前学習の内容	各課題において、授業前の資料収集、デザインなどを求める。				
事後学習の内容	各課題において、作品制作後の造形探求。				
評 価 の 方 法 基 準	期日指定の作品（100%）				
履 修 上 の 意 注	A、Bクラスに分ける。演習による作品制作が多く、提出期限を厳守すること。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	田中 孝明（実務経験あり）		
授 業 科 目	テキスタイルデザインⅡ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	2年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 テキスタイルデザインⅠに引き続き、繊維素材によるテクスチャ追求を基礎とし独自のアイデア、表現方法を習得する。また、各自が自由にテーマを選択し、独創的なデザインとして発展、展開させる。テキスタイル表現の展開と考察を学び、造形表現に応じた作品制作を行う。 【到達目標】 ・学生はテキスタイル素材を用いた造形表現方法を体験し、知ることができる。 ・テキスタイル造形表現及びテキスタイルデザインの可能性を遂行する。				
授 業 の 内 容 方 進 め 方	素材のデザインを通じて、自己表現を追求し、テキスタイルデザイン作品に完成させることが目的である。 授業進行手順 1. ガイダンス、羊毛・フェルト制作方法の説明 2. フェルトによる表現制作（球体作り） 3. フェルトによる表現制作（布作り） 4. フェルトによるテクスチャ課題制作（試作） 5. フェルトによるテクスチャ課題制作（展開） 6. フェルトによるテクスチャ課題制作（仕上げ） 7. フェルト企画課題制作（アイデア出し） 8. フェルト企画課題制作（展開） 9. フェルト企画課題制作（仕上げ） 10. フェルト課題講評会 11. 紙漉き制作方法の説明 12. 紙漉き実習課題制作（試作） 13. 紙漉き実習課題制作（展開） 14. 紙漉き実習課題制作（仕上げ） 15. 紙漉き実習課題講評会 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	企業における商品開発の実務経験を活かし、デザイン企画、色彩計画、デザイン作成に関しての実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	参考図書：『フェルトメイキング』 資料を配布する。				
事前学習の内容	各課題において、授業前の資料収集、デザインなどを求める。				
事後学習の内容	各課題において、作品制作後の造形探求。				
評 価 の 方 法 基 準	期日指定の作品（100%）				
履 修 上 の 意 注	テキスタイルデザインⅠ単位取得者のみ。教室及び備品の関係上、履修者の人数制限あり。提出物は毎回期日を厳守すること。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	竹島 玲子		
授 業 科 目	CG 基礎演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 イラスト制作からデザインまで行える描画ソフト（Adobe Illustrator）と写真を加工するためのソフト（Adobe Photoshop）の基本操作を習得する。 【到達目標】 ソフトを利用して、グラフィックデザインやイラストレーション制作の基礎的な技術を身につける。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション Illustrator と Photoshop のソフト概要 2. 丸と四角だけで描いてみる 3. Illustrator 基本操作 1（図形・拡大縮小・複製） 4. Illustrator 基本操作 2（合成・線・色） 5. Illustrator 基本操作 3（手書きの絵を使う・レイヤー・自由な線） 6. Illustrator 基本操作 4（文字・マーク） 7. 課題制作（イラスト制作） 8. 課題制作（イラスト完成） 9. Photoshop 基本操作 1（画像補正・色調補正・選択・保存） 10. Photoshop 基本操作 2（画像補正 2・切り抜き） 11. Photoshop 基本操作 3（写真の合成・塗りつぶし） 12. Photoshop 基本操作 4（補足） 13. 課題制作（データの準備・デザイン） 14. 課題制作（デザイン） 15. 課題制作（デザイン・ブラッシュアップ・完成） ※ 上記はあくまで目安で、進行状況により前後したり、変更される可能性がある 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『デザインの学校 これからはじめる Illustrator & Photoshop の本 [2019 年版]』 必要に応じて、資料を提示する。				
事前学習の内容	次の授業の内容に目を通しておく。				
事後学習の内容	授業毎に復習して、着実に技術を習得できるように心がける。				
評 価 の 方 法 基 準	レポート提出 (50%) 課題制作 (50%)				
履 修 上 の 注 意	データ保存用として、各自 USB メモリを準備しておくこと。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	上村 晴彦		
授 業 科 目	クリエイション論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 身体と環境を基軸としたファッション、デザイン、芸術について考える。 アーティストやデザイナー、思想家によるデザインやものに対する姿勢や洞察について、作品や文章から追っていく。クリエイションの課題に取り組み、プレゼンテーションによって表現・考察する。 【到達目標】 ・ 普段から周囲にあるもの・出来事を観察する姿勢を身につけることができる。 ・ 普遍的あるいは新しい価値や視点を理解し表現できる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション 創造することについて 2. 収集することについて 3. 編集することについて 4. らしさについての考察 5. プレゼンテーション（自分らしさ） 6. 目に見ることができないけれど、存在する大切なもの 7. 点について 8. 線について 9. 環境とものを利用したつらなり 10. プレゼンテーション（点と線の収集と表現） 11. ものの見方について 12. ものごとを立ち上げることについて 13. 計画すること、設計すること 14. 展開することについて 15. プレゼンテーション（あるものを自由に展開する） 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	参考資料 『かたちのみかた』立花文穂（誠文堂新光社）				
事前学習の内容	授業で配付された資料や参考資料に目を通し、プレゼンテーションの準備や課題に取り組むこと。				
事後学習の内容	各回の授業に関するレポートを提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	プレゼンテーション（70%） 課題（30%）				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	上村 晴彦		
授 業 科 目	クリエイション演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 創造するための観察する力とチームワークを高める能力を身につける。 1. 束を編集・制作し、新しいものの見方を提示する。 2. event（イベント・出来事）に至るまでを、グループワークによって企画・計画して実践する。 【到達目標】 ・身近なものを観察・収集・編集し、新しいものの見方を創造することができる。 ・グループワークに必要なコミュニケーションができる。企画を立案し実践することができる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション 束を製作するための趣旨説明 2. 素材の収集 3. 編集の考え方について 4. 束の制作 5. 束のプレゼンテーション 6. オリエンテーション event を企画・構想するための趣旨説明 7. 企画と構想について 8. 計画とスケジュールについて 9. 広報のありかたについて 10. 場所の探索 11. 中間報告 12. event の制作 13. event のプレゼンテーション 14. 搬入、設営 15. event の開催、発表、搬出 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	参考資料 『デザインの生態学』後藤武・佐々木正人・深澤直人（東京書籍）				
事前学習の内容	課題に取り組むこと、およびグループワークのための準備をすること。				
事後学習の内容	各回の授業やグループでの打ち合わせについてのまとめを行い、次回の授業で発表すること。				
評 価 の 方 法 基 準	課題（60%） プレゼンテーション（40%）				
履 修 上 の 意 注	展示場所の視察や搬入搬出など、別途交通費などが必要になる場合がある。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	上村 晴彦（実務経験あり）		
授 業 科 目	ライフスタイルプロダクト演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 今を生きる私たちがどのようなものに囲まれて生活しているかを観察し考え、「新しい世界」のためのデザインを試みる。「つつむ」というテーマに取り組み、私たちの周囲を考察しライフスタイルを再考する。観察と収集した資料から導き出された「つつむ」を広い意味での身につけるものにデザインする。 【到達目標】 ・自分たちの生活をつくり出しているもの（環境）を考察し、デザインを提案することができる。 ・ライフスタイルという観点から新たな視点や価値を創造することができる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション ライフスタイルとテーマ「つつむ」について 2. 生活している身近な環境について 3. 素材の収集とその方法について 4. つつむについての考察1 ものとの関係 5. つつむについての考察2 ないものに包まれること 6. つつむについての考察3 行為について 7. レイアウトについて 8. 中間発表 プレゼンテーション 9. 制作、場所の探索 10. 展示計画 11. 広報のデザイン 12. 搬入、設置、展示 13. 展示、搬出 14. まとめ 15. ポートフォリオの作成 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	デザインと展示の実務経験を活かし、デザイン企画とデザインに関する実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	参考資料 『0円ハウス』坂口恭平（リトルモア） 『超芸術トマソン』赤瀬川源平（ちくま文庫）				
事前学習の内容	課題に取り組み、参考資料の該当箇所や配付資料をよく読むこと。				
事後学習の内容	各回の授業についてのまとめを行い、次回の授業で発表すること。				
評 価 の 方 法 基 準	課題（70%） プレゼンテーション（30%）				
履 修 上 の 意 注	展示場所の視察や搬入搬出など、別途交通費などが必要になる場合がある。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	青島・伊藤・稲葉・請田・佐藤・軸原・竹島・上村・田中			
授 業 科 目	デザイン・アート論		科目区分	専門科目	2 単 位	
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・後期	
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 デザイン及びアート領域に関わる活動について理解し、デザインワーク、ものづくり、企画、販売、調査など様々な展開と関連性を学ぶ。各講義内容から社会におけるデザイン、アートの役割を知り、将来的に関連分野での仕事に就くための素養を身につける。 【到達目標】 ・学生はデザイン、アートの社会的役割を知る。 ・学生はデザイン、アート分野に携わるための素養を身につけることができる。					
授 業 の 内 容 進 め 方	各フィールドにおける、デザイン及びアートに関わる下記内容を講義する。 1. 独学デザイン術 COCHAE 仕事紹介編（担当：軸原） 2. 独学デザイン術 その他派生編（担当：軸原） 3. 美術史から見たアート - 近代美術を中心に（担当：請田） 4. アートと社会のかかわり（担当：請田） 5. デザインとは？（担当：竹島） 6. 陶芸家の仕事、1+0（イチタスゼロ）／プロダクトの仕事 について（担当：伊藤） 7. 器を選ぶ、器と自分との関わりを通して表現する（担当：伊藤） 8. イラストレーションとは？（担当：竹島） 9. 制作の背景にあるもの（担当：竹島） 10. 糸を紡ぐための繊維と準備について、羊毛の歴史、種類、用途を理解する（担当：青島） 11. 糸紡ぎのテクニックとデザイン：伝統的な糸紡ぎから現代のアートヤーンまで（担当：青島） 12. 地域を興すためにデザインが出来る事（担当：稲葉） 13. デザイン&ブランディング（担当：佐藤） 14. ビジュアルアイデンティティ（担当：佐藤） 15. 児島でプロダクト、イベントをデザインする（担当：稲葉）・まとめ（担当：稲葉・上村・田中） 定期試験は実施しない					
実 務 経 験 を 活 か す 内 容						
テ キ ス ト 教 材	参考図書：青島由佳著『糸紡ぎのテクニックとデザイン』 適宜資料を配布する。					
事前学習の内容	各講義において、授業前の調査、資料収集などを求める。					
事後学習の内容	各講義において、授業後の振り返りもしくはレポートを求める。					
評 価 の 方 法 基 準	授業レポート（100%）					
履 修 上 の 注 意	なし					

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	大塚 優美		
授 業 科 目	美術史		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1、2 年次・後期
授 業 の 主 題 標 目	【授業の主題】 前半では大原美術館の歴史・所蔵品を通して美術館の成り立ちや存在意義、作品の見方や調べ方を学び理解を深める。後半では、西洋美術の多くを占め、その発展を促したキリスト教美術を主に取り上げて、西洋美術史の入門として、作品の造形的特徴やモチーフの意味について考察し、作品がどのような社会的文脈で制作され、どのような機能・意味を持っていたかについて理解を深める。 【到達目標】 授業で紹介した作品を通じて、美術史学の基本的な見方を身につけ、自ら作品を分析することができる。				
授 業 の 内 容 方 進 め 方	1. 大原美術館の歴史と作品 2. 美術館の仕事・役割 ー大原美術館の概要と学芸員の仕事から 3. 作品の見方・情報の調べ方 4. 大原美術館に行ってみよう① 事前学習 5. 大原美術館に行ってみよう② 現地見学 6. イントロダクション ーキリスト教と美術 7. 受胎告知 8. キリストの公生涯 9. 受難伝 10. 聖母と美術 11. 聖人と聖女 12. 疫病と美術 13. カトリック改革と美術 14. 近代と日本のキリスト教美術 15. 総括 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	参考図書（※購入の必要なし） 『大原美術館＋ 作品 151 と建築』公益財団法人大原美術館（2022 年） 秋山聰、田中正之（監修）『西洋美術史』美術出版ライブラリー（2021 年） 宮下規久朗『モチーフで読む美術史』筑摩書房（2013 年）				
事前学習の内容	美術館・博物館を訪れて展覧会を見る、あるいは参考図書に挙げているような美術に関する本を読むなどして、なにか一つでも作品（実物・図版どちらでも可）を見ておく。				
事後学習の内容	興味を持った作品、テーマ、主題、モチーフ、出来事などがあれば、それについて調べて知識を深める。また、授業で触れた美術館・博物館、展覧会に足を運び、本物の作品を見る。				
評 価 の 方 法 基 準	出席カードによる授業へのコメントや質問（30%）、期末レポート（70%）				
履 修 上 の 意 注	遅刻をしないこと。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	高橋 俊臣		
授 業 科 目	カラーコーディネート論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 デザイン、造形や日常生活と密接な関わりを持つ「色」を知覚や心理などさまざまな視点から捉え、その基礎を学ぶ。また基礎理論のみならず背景にある時代、社会や文化などとの関係からその応用や可能性を考察する。 【到達目標】 ・色の知覚、生理、心理作用など色彩の基礎知識を説明できる。 ・色の歴史的背景や文化、社会への影響を考察しデザイン表現に活かすことができる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. カラーコーディネートとは 2. 色のみえ・光とスペクトル 3. 目と脳の働き・色の心理的作用 4. ワーク (1) 5. 復習と考察・色彩事例 (1) コミュニケーションについて 6. 色の感情効果・混色と色再現 7. 色の表示 マンセル表色系・オストワルト表色系 8. ワーク (2) 9. 復習と考察・色彩事例 (2) 製品について 10. 色の測定・色の嗜好 11. 色彩調和・カラーユニバーサルデザイン 12. ワーク (3) 13. 復習と考察・色彩事例 (3) 景観について 14. 日本の色・世界の色 15. ワーク (4) ・まとめ・レポートについての説明 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	教材を指定する場合がある。 参考書等は授業内で紹介する。 参考書：『色彩』 大井義雄・川崎秀昭 著 日本色彩研究所 『色彩学の基礎』 山中著 著 文化書房博文社				
事前学習の内容	身の周りの色、美術作品やデザイン、環境の色の在り方、見え方に注目する。 テキストの次回授業内容に該当するページを熟読する。				
事後学習の内容	授業内容で理解できない点、疑問点などを再確認し、報告する。				
評 価 の 方 法 基 準	期末レポート (60%) 授業毎に提出するワーク (40%) 期末レポート提出を評価条件とする。				
履 修 上 の 意 注	進行状況により授業内容および順序を変更する場合がある。 理解を深めるために色収集レポートなどを課すことがある。 色彩検定等を目指す場合は、講義では触れない内容についても自主的に学んでいくこと。 資料代として 500 円～1000 円を徴収する場合がある。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	田中 孝明		
授 業 科 目	染織Ⅰ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 布を織ること、染色すること、諸々の織組織による造形制作を行う。これらを完全な手仕事によって、織りの基本操作と基本技術を学び、応用作品に展開することを修得する。各自、繊維素材に触れながら、テキスタイルの見地からのプロダクトとしての制作を体験し、ものづくりを行う。 【到達目標】 ・ 学生は布の構造及び織り表現を体験し、知ることができる。 ・ 学生は織りによる布の造形表現展開を遂行する。				
授 業 の 内 容 方 進 め 方	手織機を使用し、織組織の単純で基本的な平織と糸染めの基本を修得する。 授業進行手順 1. ガイダンス、織組織の説明 2. 課題説明、色彩計画、ウール精練 3. ウール染色の説明、ウール染色 4. ウール染色 5. 手織機の説明、糸の整経 6. 糸の整経 7. 手織機の説明 8. 手織機（踏木4本、綜紵4枚）の基本操作についての修得 9. 手織機への経糸セッティング（経糸） 10. 手織機への経糸セッティング（綜紵通し） 11. 手織機への経糸セッティング（箆通し） 12. 平織組織の応用制作・織り始めの説明 13. 平織組織の応用制作 14. 組織の応用制作・基本技術の修得 15. 組織の応用制作 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	参考図書：『ウィーヴィング・ノート』 資料を配布する。				
事前学習の内容	課題において、授業前の資料収集、デザインなどを求める。				
事後学習の内容	各課題において、作品制作後の造形探求。				
評 価 の 方 法 基 準	期日指定の作品（100%）				
履 修 上 の 意 注	教室及び織機台数の関係上、履修者の人数制限あり。提出物は期日を厳守すること。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	田中 孝明		
授 業 科 目	染織Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	2 年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 様々な織組織と素材、色彩効果を用いたテクスチャーと造形表現を修得し、自ら計画した布制作を修学する。織ることをより発展させ、造形表現作品として染織を考え作品を制作する。 【到達目標】 ・学生は布の構造及び織り表現を体験し、知ることができる。 ・学生は織りによる布のデザイン展開を遂行する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	手織機を使用し、織組織の単純で基本的な平織と糸染めの基本を修得する。 授業進行手順 1. ガイダンス、課題説明 2. 糸の精練 3. 糸の染色技術の修得 4. 糸の染色 5. 糸の整経技術の修得 6. 糸の整経 7. 手織機操作の修得 8. 手織機操作と製織準備 9. 組織による布の制作の修得 10. 組織による布の制作（基本） 11. 組織による布の制作（平織の応用） 12. 組織による布の制作（変化平織の応用） 13. 組織による布の制作（綾織の応用） 14. 組織による布の制作（変化綾織の応用） 15. 組織による布の制作（仕上げ） 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	参考図書：『ウィーヴィング・ノート』 資料を配布する。				
事前学習の内容	各課題において、授業前の資料収集、デザインなどを求める。				
事後学習の内容	各課題において、作品制作後の造形探求。				
評 価 の 方 法 基 準	期日指定の作品（100%）				
履 修 上 の 意 注	教室及び織機台数の関係上、履修者の人数制限あり。提出物は期日を厳守すること。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	田中 孝明		
授 業 科 目	染色		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 布素材を染色する方法を修得する。基本的なろうによる防染技術を学び、テーマ課題では各自の自由な発想をもとにアート及びデザインとして、染色表現を追求する。染色の基本工程を学び、各自がデザインした布を制作する。 【到達目標】 ・学生は染色表現を体験し、知ることができる。 ・学生は染色による布のデザイン展開を遂行する。				
授 業 の 内 容 方 進 め 方	ろう染による作品制作方法・染色方法の基本的な工程から応用的な工程まで体験する。 授業進行手順 1. ガイダンス、ろう染制作説明 2. マス見本制作（下描き、ろう防染） 3. マス見本制作（ろう防染） 4. マス見本制作（染色技術の修得） 5. マス見本制作（染色） 6. マス見本制作（固着） 7. テーマ課題制作（デザイン制作・下地作り） 8. テーマ課題制作（下描き） 9. テーマ課題制作（ろう防染） 10. テーマ課題制作（染色） 11. テーマ課題制作（固着） 12. テーマ課題制作（ろう防染2回目） 13. テーマ課題制作（染色2回目） 14. テーマ課題制作（固着2回目） 15. テーマ課題講評会 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	参考図書：『染色の基礎知識 合成染料の技法』 資料を配布する。				
事前学習の内容	課題において、授業前の資料収集、デザインなどを求める。				
事後学習の内容	各課題において、作品制作後の造形探求。				
評 価 の 方 法 基 準	期日指定の作品（100%）				
履 修 上 の 注 意	テキスタイルデザインⅠ単位取得者のみ。教室及び備品の関係上、人数制限あり。 演習による作品制作が多く、提出物は毎回期日を守ること。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	クリストファー・ウォルトン		
授 業 科 目	ビジュアルデザイン I		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 デザインの基礎学習である。平面と立体の作品制作演習課題を通して、Design Thinking（デザイン知識）の修得と Craftsmanship（描く技術・制作技術）の意識を表現する。 【到達目標】 ・ビジュアルデザインの基礎要素を認識する。 ・その知識に基づいて、自分の作品を客観的に判断する。 ・丁寧な制作技術を表現する。 ・Adobe を使用してデジタル制作を行う。 ・作品のプレゼンテーションを効果的に発表する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	各プロジェクトの時間的要件や授業の状況に応じて、課題計画を3つのプロジェクトから2つのプロジェクトに調整する可能性がある。 課題作品1：平面制作 1. 科目の目標、課題計画の概説 2. 平面作品「Idea Development & Planning：アイデア開発 & 制作計画」 3. 平面作品「Design Creation：制作」 4. 平面作品「Design Retouching：修正」 5. 平面作品「Design Completion：仕上げ」 課題作品2：立体制作 6. 立体作品「Idea Development & Planning：アイデア開発 & 制作計画」 7. 立体作品「Design Creation：制作」立体デザイン完成 8. 立体作品「Design Retouching：修正」 9. 立体作品「Design Completion：仕上げ」 10. 立体作品の写真撮影 課題作品3：デジタル制作 11. デジタル実施：Adobe Photoshop「Image Correction：画像補正」 12. デジタル実施：Adobe Illustrator「Page Layout：ページレイアウト」 13. デジタル実施：Adobe Illustrator「Portfolio：作品集」制作 14. デジタル実施：Adobe Illustrator「Portfolio：作品集」仕上げ 15. デジタル実施：最終プレゼンテーション、講評・評価 定期試験は実施しない。				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『Inventing Kindergarten』 by Norman Brosterman, 1997 『The Magic of M.C. Escher』 by J.L. Locher, 2000 『The Work of Charles and Ray Eames』 Harry N. Abrams, 1997 上記に加えて授業課題に関連参考資料を Google Classroom で投稿する。				
事前学習の内容	事前 Google Classroom に指示、配布資料、参考を読み、授業目的を把握しておくこと。 授業活動に必要な材料、用具、デジタルファイルを持参すること。				
事後学習の内容	授業内容を見直すとともに、課題の要件に従っていることを確認すること。 各課題で授業中の進捗状況に関する小レポートが提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	作品制作・提出（50%）、作品プレゼン・発表（30%）、小レポート（20%）等				
履 修 上 の 注 意	課題制作には色鉛筆、アクリル絵の具、筆などを使用します。これらの材料は各自で購入してください。 デジタル課題の場合は、64GB 以上の USB メモリをご用意ください。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	竹島 玲子		
授 業 科 目	ビジュアルデザインⅡ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 以下の 3 つの課題の中から 1 つを選び、グラフィックデザインの基礎的な技術と表現力を身につけていく。 【到達目標】 (1) 社会の中にある課題を自分で見つけて、その課題を解決するためのデザインを制作していく。自ら課題を発見し、解決策を考える力を身につける。 (2) zine（自由な手法でまとめた冊子）を制作する。テーマに適した zine のあり方を考えて、独自性のあるデザインを身につけていく。なお、テーマは自由。 (3) 架空の風呂敷ブランドを考えて、風呂敷のテキスタイルデザイン、ブランドロゴ、リーフレットなどを制作していく。				
授 業 の 内 容 進 め 方	- オリエンテーション 課題選択の検討 - 課題の決定・リサーチ - テーマ決定 - zine のテーマ決定 - ブランドのコンセプトを考える - リサーチ - 仕様の決定 - テキスタイルデザイン検討・制作 - コンセプトシート作成 - 画像の選定・制作 - テキスタイルデザイン制作 - 仕様の決定 - 画像制作 - テキスタイルデザイン完成 - 画像の制作 - 画像加工 - ロゴ／制作 - 画像加工 - テキスト制作 - ロゴ／ブラッシュアップ - テキスト制作 - 画像とテキストの配置決め - ロゴ／仕上げ - 画像とテキストの配置決め - デザイン制作 - リーフレット／リサーチ・画像準備 - デザイン制作 - デザインブラッシュアップ - リーフレット／テキスト制作 - デザインブラッシュアップ - デザイン仕上げ・印刷 - リーフレット／デザイン - デザイン仕上げ - 印刷・製本 - リーフレット／デザインブラッシュアップ - 印刷 - 製本 - 印刷 (1) (2) (3) プレゼンテーション ※ 上記の進行はあくまで目安で、作業内容は個々の進行具合で変わってくる。 ※ (1)の進め方は一例で、選んだテーマによって各自で変わってくる。 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『スタイル別ロゴデザイン』（パイインターナショナル）『手で作る本』（山崎曜／著／文化出版局） 必要に応じデザインに関する書籍を参考資料として提示する。				
事前学習の内容	(1) 普段から、デザインで解決できそうな課題を意識的に探す。(2) 授業内で制作するのが難しい作品作りや写真撮影などは、授業外で準備する。(3) 参考になりそうなデザインを普段からチェックしておく。				
事後学習の内容	授業でやった作業を振り返り、どのくらい自分が設定した目標に到達できたか検証し、今後の学習材料にする。				
評 価 の 方 法 基 準	レポート提出 (50%) 課題制作 (50%)				
履 修 上 の 注 意	データの保存用として、USB メモリを準備しておくこと。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	岡野 康史		
授 業 科 目	ビジュアルデザインⅢ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	2 年 次 ・ 後 期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 架空のイベントを題材に、グラフィックデザインの制作過程を網羅的に学ぶ。 【到達目標】 ・アイデアを導き出し、さらにビジュアルに昇華する力を養う。 ・グラフィックデザインの素養を身につける。 ・答えのない問いに向き合い最適解を導き出す力を磨く。 ・プレゼンテーションを通して、思考の可視化力・言語化力を養う。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション 2. 【STEP① インプット】 イベントとターゲット設定（グループ） 3. 【STEP① インプット】 イベントとターゲットの観察・関連資料収集 4. 【STEP① インプット】 ブレインストーミング（グループ） 5. 【STEP② 計画】 アイデア・コンセプト開発 6. 【STEP② 計画】 タイトル・キャッチコピー開発 7. 【STEP② 計画】 手描きラフ制作 8. 【中間発表】 コンセプトの可視化と言語化（講評） 9. 【STEP③ 制作】 言葉と書体 10. 【STEP③ 制作】 構図とレイアウト 11. 【STEP③ 制作】 配色 12. 【STEP③ 制作】 仕上げ 13. 【STEP④ アウトプット】 発表資料 制作 14. 【STEP④ アウトプット】 発表資料 仕上げ 15. 【最終発表】 プレゼンテーション（講評） 最終発表を定期試験とする				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	必要に応じて資料を配布または提示する。 【参考図書】『アイデアのつくり方』 ジェームス・W・ヤング 著 『コンセプトが伝わるデザインのロジック』 OCHIBA Institute 著 『なるほどデザイン』 筒井美希 著				
事前学習の内容	デザインが好きだと思ったモノ・コトについて、どこがなぜ好きなのかを考えておく。				
事後学習の内容	成果物を色々な人に見てもらい批判してもらう。インプット方法・アイデアの出し方・制作手法・発表内容を今後の制作や研究に活かす。				
評 価 の 方 法 基 準	中間発表（30%）、最終発表（30%）、作品（40%）				
履 修 上 の 意 注	データの保存用としてUSB メモリを準備しておくこと。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	梅野 竜一		
授 業 科 目	ビジュアルデザインⅣ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	実習	開 講 時 期	2 年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 幅広い分野で必要とされているデジタルデザインを学ぶ。 【到達目標】 デジタルデザイン(Web デザイン)のプロセスを通じて、ユーザー視点を重視した UX デザイン、情報整理、アイデアの創出および具体化の方法と、クライアントに提案できるプレゼンテーションスキルを習得することを目標とする。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション 2. デザイン思考＝UX デザイン／リサーチとターゲット分析 3. デザイン思考＝プロジェクトの観察 4. デザイン思考＝プランニングとコンセプトメイキング 5. デザイン思考＝課題と目的の言語化（中間発表） 6. デザイン制作＝情報整理とサイト構成 7. デザイン制作＝ワイヤーフレーム制作 8. デザイン制作＝メインビジュアルの検討 9. デザイン制作＝UI デザイン 10. デザイン制作＝可変なデザイン 11. デザイン制作＝Web への反映 12. プレゼンテーション＝資料の制作 13. プレゼンテーション＝資料の推敲 14. プレゼンテーション＝資料の説明（最終発表（試験）） 15. プレゼンテーション＝全体講評				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	必要に応じて資料を配布または提示する。 【参考図書】 『Web デザインの思考法』金 成奎（著）、『Web デザイン・スタンダード 伝わるビジュアルづくりとクリエイティブの最新技法』境 祐司、小浜 愛香、森本 友理、野田 一輝、北村 篤志、有吉 学（共著）				
事前学習の内容	同じ Web サイトをスマートフォンやPC 等、複数のデバイスで見て、表示や操作性の違いを観察する。良いと思った Web サイトについて、なぜそう感じたのかを考え、言語化してみる。				
事後学習の内容	授業で取り組んだデザインや構成案について、友人や家族など第三者に説明し、フィードバックをもらうことでプレゼンテーションスキルを高める。				
評 価 の 方 法 基 準	レポート・課題（30%）、中間発表（30%）、最終発表（40%）				
履 修 上 の 意 注	データの保存用として USB メモリを準備しておくこと。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	野村 真司		
授 業 科 目	基礎デッサン		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 デッサン力は、スポーツという体幹トレーニングである。そのため、「基礎デッサン」とは地味で他の造形と無関係なものに感じられるかもしれないが、この体幹の力をつけることはあらゆる造形の基礎となるものである。 【到達目標】 ここでは、モノの描写を通して、造形の基本となるプロポーション・明暗・量感・質感などについての観察力と造形感覚を養い、服飾美術で応用できる基礎力の修得を目標とする。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション・遠近法の理解 2. 〈課題1〉鉛筆デッサン（幾何形体 立方体） ー形をとるー 3. 〈課題1〉鉛筆デッサン（幾何形体 立方体） ートーンをつけるー 4. 〈課題2〉鉛筆デッサン（幾何形体 球・円柱） ー形をとるー 5. 〈課題2〉鉛筆デッサン（幾何形体 球・円柱） ートーンをつけるー 6. 〈課題3〉鉛筆デッサン（静物 白いもの） ー形をとるー 7. 〈課題3〉鉛筆デッサン（静物 白いもの） ートーンをつけるー 8. 〈課題3〉鉛筆デッサン（静物 白いもの） ー仕上げー 9. 〈課題4〉鉛筆デッサン（静物 黒いもの） ー形をとるー 10. 〈課題4〉鉛筆デッサン（静物 黒いもの） ートーンをつけるー 11. 〈課題4〉鉛筆デッサン（静物 黒いもの） ー仕上げー 12. 〈課題5〉鉛筆デッサン（静物 質感のあるもの） ー形をとるー 13. 〈課題5〉鉛筆デッサン（静物 質感のあるもの） ートーンをつけるー 14. 〈課題5〉鉛筆デッサン（静物 質感のあるもの） ー仕上げー 15. 講評 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	参考図書 『鉛筆画初級レッスン（みみずくビギナーシリーズ）』 視覚デザイン研究所				
事前学習の内容	各自、スムーズに制作に取り掛かれるよう、デッサンの進捗状況に合わせ、前回の課題箇所を授業前までにイメージしておく。				
事後学習の内容	当日の制作をふり返り、次週での修正箇所をチェックしておく。				
評 価 の 方 法 基 準	全課題提出および2/3以上の出席を前提条件として、作品（100%）で評価する。				
履 修 上 の 注 意	汚れてもよい服装であること。 デッサン経験者は、オリエンテーションに過去のデッサン（画像可）を持参すること。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	野村 真司		
授 業 科 目	人体デッサン		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	2 年 次 ・ 前 期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 古来、西洋において理想の人体追及は、美の究極の目標であった。実際にモデルをおいて人体をデッサンすることによりその意味を理解する。 【到達目標】 あらゆる造形は、色彩・フォルム・マテリアルから成り立っている。人体デッサンでは、マテリアルの問題はひとまず置き、フォルムとモノトーンを正確に表現できることを目標とする。トーンへの理解は、やがてバール（色価）への理解につながっていくはずである。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーションおよび〈課題1〉石膏像（全身）一形をとるー 2. 〈課題1〉石膏像（全身）ートーンをつけるー 3. 〈課題2〉立ちポーズⅠ ー形をとるー 4. 〈課題2〉立ちポーズⅠ ートーンをつけるー 5. 〈課題2〉立ちポーズⅠ ー仕上げー 6. 〈課題3〉立ちポーズⅡ ー形をとるー 7. 〈課題3〉立ちポーズⅡ ートーンをつけるー 8. 〈課題3〉立ちポーズⅡ ー仕上げー 9. 〈課題4〉座りポーズⅠ ー形をとるー 10. 〈課題4〉座りポーズⅠ ートーンをつけるー 11. 〈課題4〉座りポーズⅠ ー仕上げー 12. 〈課題5〉座りポーズⅡ ー形をとるー 13. 〈課題5〉座りポーズⅡ ートーンをつけるー 14. 〈課題5〉座りポーズⅡ ー仕上げー 15. 講評 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	参考図書『人体デッサン（みみずくアートシリーズ）』視覚デザイン研究所				
事前学習の内容	各自、スムーズに制作に取り掛かれるよう、デッサンの進捗状況に合わせ、前回の課題箇所を授業前までにイメージしておく。				
事後学習の内容	当日の制作をふり返り、次週での修正箇所をチェックしておく。				
評 価 の 方 法 基 準	全課題提出および2/3以上の出席を前提条件として、作品（100%）で評価する。				
履 修 上 の 注 意	汚れてもよい服装であること。 基礎デッサンを履修していることが望ましい。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	稲葉 剛		
授 業 科 目	表現演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 デザインに必要な思考能力、発想法、身体感覚、描写力、平面感覚、空間感覚を開発するが、本授業では特に、“空間感覚”と“平面感覚”を重視し、空間・立体系演習課題および平面系課題を制作する。 【到達目標】 - 各課題作品について、文章表現とディスカッションを行うことを目標とする。 - デザイン業界の基礎ツールである adobe illustrator に慣れること、具体的には就職活動に際して、蓄積したスキルを提示できる作品を数点制作することを到達目標とする。				
授 業 の 内 容 進 め 方	- 空間感覚の基礎トレーニング - 光と影の効果を活かした立体作品の事例収集と計画 - 光と影の効果を活かした立体作品の制作 - タイポグラフィ・ロゴマークの制作 - ロゴ・マークに関するレポート作成 - ロゴ・マークの商品への応用、店舗計画の計画 - ロゴ・マークの商品への応用、店舗計画のスケッチ制作 - デザインコンペについて解説、グラフィック系のコンペティション検索 - グラフィック系コンペティション応募作品計画 - グラフィック系コンペティション応募作品制作 - 生活空間とデザイン提案について（グループワーク） - デザイン提案に向けてのグループでの討議（ブレインストーミング実習） - アイデアスケッチ・制作 - プレゼンテーションボード制作 - 作品発表と講評、試験				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	必要に応じてプリントを配布する。 参考図書：『デザインを学ぶ1 グラフィックデザイン基礎』（エムディエヌコーポレーション）				
事前学習の内容	課題制作のための道具と材料を用意し、基本的な使用方法を把握しておく必要がある。				
事後学習の内容	授業中に完成しなかった課題は次回授業までに完成させておくこと。				
評 価 の 方 法 基 準	月に2回程度の提出作品（30%）、 期末提出作品（60%）、試験（10%）				
履 修 上 の 注 意					

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	南川 茂樹		
授 業 科 目	店舗空間演出演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 ・デザインに必要な思考能力、発想法、身体感覚、平面感覚、空間感覚、社会性を開発する。 ・店舗空間演出演習では、観察・思考を経て、空間と造形物の関係性を理解し、発想したデザインを具現化する手段としての立体表現を体得する。 【到達目標】 ・与えられたテーマに則した演出を発想できる。 ・発想したデザインを具現化できる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション（授業内容について） 2. 課題1「積層表現による空間演出」 3. 稜線をつくる厚み 直線がつくる曲線 平面がつくる曲面 4. アイデアスケッチ 5. 検討モデルの制作 6. 作品制作 7. 作品制作 8. プレゼンテーション・講評 9. 課題2「1枚の板から椅子をつくる」 10. 接合方法の検討 11. 構造の検証 12. 作品制作 13. 作品制作 14. 図面作成 15. プレゼンテーション・講評 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	必要に応じてプリントを配布する。 参考図書：『藤江和子の形象－風景へのまなざし』（TOTO 出版） 参考図書：『1枚の板から作る楽しい！合板木工』（学習研究社）				
事前学習の内容	課題制作のための道具と材料を用意し、使用方法を把握しておく。				
事後学習の内容	授業中に完成しなかった課題は次回授業までの宿題として制作を行う。				
評 価 の 方 法 基 準	二つの課題の提出作品の達成度（70%）、プレゼンテーション（30%）				
履 修 上 の 注 意					

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	畠 和宏		
授 業 科 目	ディスプレイデザイン演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	2年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 商業空間や展示空間のディスプレイデザインに重点をおき、模型やプレゼンテーションシートづくりを通して、デザインに必要な思考能力・発想法・身体感覚・描写力・平面感覚・空間感覚・表現力を学ぶ。 【到達目標】 ・ディスプレイデザインにおける基礎知識や事例について理解する ・課題制作プロセスにおいて、文章やスケッチ・模型等を使用してディスカッションできる ・自身の提案を模型およびプレゼンテーションシートで効果的に表現できる				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション（授業概要・課題説明） 2. ディスプレイデザインについて 3. 事例調査の発表・ディスカッション 4. 課題① デザイン検討 5. 課題① 模型制作 6. 課題① プレゼンテーションシート作成 7. 課題① プレゼンテーション・講評 8. 課題② デザイン検討 9. 課題② スタディ模型制作 10. 課題② プレゼンテーションシート作成 11. 課題② 中間プレゼンテーション・講評 12. 課題② 模型制作 13. 課題② プレゼンテーションシート作成 14. 課題② 最終プレゼンテーション・講評 15. まとめ・ディスカッション 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	必要に応じてプリントを配布する。 参考図書：『空間創造発想帖』（日本空間デザイン協会／六耀社）、『コンパクト建築設計資料集成』（日本建築学会／丸善）、『コンパクト建築設計資料集成[インテリア]』（日本建築学会／丸善）				
事前学習の内容	課題制作のための道具と材料を準備し、使用方法を把握しておく必要がある。				
事後学習の内容	授業中に完成しなかった課題は次回授業までに完成させておくこと。				
評 価 の 方 法 基 準	成果物（模型・プレゼンテーションシート）（60%） 発表・プレゼンテーション・ディスカッション（40%）				
履 修 上 の 注 意					

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	稲葉 剛		
授 業 科 目	基礎デザイン		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 デザインに必要な思考能力、身体感覚、描写力、平面感覚、空間感覚を開発する。 「基礎デザイン」では特に、“平面”を重視する。 【到達目標】 - 各課題作品について、獲得した造形的感覚を履修者間で共有するために、文章表現とディスカッションができること。 - 履修者が入学前に受けた美術教育の有無に関わらず、在学中に履修するデザイン系授業を効果的に履修するための姿勢を身に着けること。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. デザインの構成要素（色・形・材質） 2. 色彩について 3. 作品制作のプランニング 4. 平面構成の考え方 5. 平面構成とレイアウト 6. コラージュ表現 7. 単純化についての演習 8. タイポグラフィーに関して 9. ロゴ、サインの制作 10. ピクトグラムの解説と制作 11. デジタルカメラ撮影入門 12. パッケージデザインの制作 13. ポスターデザインの制作 14. 作品プレゼンテーション演習準備とプレゼンテーション演習 15. プレゼンテーション演習と授業のまとめ、試験				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	必要に応じてプリントを配布する 参考図書：『デザインを学ぶ1 グラフィックデザイン基礎』（エムディエヌコーポレーション）				
事前学習の内容	課題制作のための道具と材料を準備する必要がある。				
事後学習の内容	授業中に完成しなかった課題は次回授業までに完成させておくこと。				
評 価 の 方 法 基 準	月に2回程度の提出作品（30%）、 期末提出作品（60%）、試験（10%）				
履 修 上 の 注 意					

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	関 崎 哲		
授 業 科 目	空間デザイン演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 ・パッケージ及びデザイン空間の観察と分析の方法を習得する。 ・表現意図を持った空間を想定し、マケットを制作する。 【到達目標】 ・パッケージ及びデザイン空間を分析し、そのデザイン意図と素材の関係を説明することができる。 ・表現意図を明確に設定でき、それを反映させた空間が表現できる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 授業の説明、観察・分析のためのイントロダクション 2. パッケージデザインの観察スケッチ（前編） 3. パッケージデザインの観察スケッチ（後編） 4. パッケージ及びデザイン空間のための素材と技法 5. パッケージ及びデザイン空間のための素材と技法の観察と分析・レポート作成 6. パッケージ及びデザイン空間のための素材と技法についてプレゼンテーション① 7. パッケージ及びデザイン空間のための素材と技法についてプレゼンテーション② 8. 表現意図を持った空間の制作についてイントロダクション 9. 空間の表現意図の明確化と素材選定① 10. 空間の表現意図の明確化と素材選定② レポート作成 11. 制作する空間についてプレゼンテーション① 12. 制作する空間についてプレゼンテーション② 13. 表現意図を持った空間の制作① 14. 表現意図を持った空間の制作② 15. 作品講評、まとめ 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	必要に応じてプリントを配布する。 参考図書：『素材とデザインの教科書』（日経 BP マーケティング） 『インテリアデザイン入門』（エクスナレッジムック）				
事前学習の内容	課題制作のための道具と材料を用意し、使用方法を把握しておく。 授業時間内の作業がスムーズにいくように事前準備を行う。				
事後学習の内容	授業中に行った内容、問題点をまとめ記録する。自主制作時間を確保し、効率的に制作を進める。				
評 価 の 方 法 基 準	提出作品及びレポート（30%）、プレゼンテーション（30%）、期末提出作品（40%）				
履 修 上 の 注 意					

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	インターンシップ I		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	1 年次・前期（集中）
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 大学で学んでいる理論や技術をもって、企業などの現場でビジネスの世界を体験し、働くことの楽しさや厳しさを学ぶ。 【到達目標】 この授業を通じて、①自分自身の将来について考えること、②自分自身の適性を確認できるようになること、③働く意義を考えること、④働くことの楽しさや厳しさを体感すること、⑤就職活動に対する幅を広げキャリアデザインを考えることを理解する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	受入企業や団体によって日程や実習期間（原則として1週間程度）が異なるので注意すること。 1. インターンシップとは（担当：情報・地域・ビジネスコース教員） 企業や団体などで働くこと、キャリアデザイン、マナーについて考える 2. インターンシップの準備（担当：情報・地域・ビジネスコース教員） 企業の事前調査、インターンシップ先の決定 3. インターンシップの実施（担当：服飾美術学科全教員） 1) 基本的にはインターンシップ受け入れ企業の事業内容、インターンシップ受け入れ態勢及び勤務規則に従って実施する。 ※インターンシップ先は、大学から紹介する受入先および就活支援サイト等から紹介する受入先を各自で選択することができます。 2) 大学から紹介するインターンシップは1社当たり1～8名単位で行うものとする。 3) インターンシップ内容については、企業と大学間で打ち合わせた基本線に準じて企業が詳細計画を作成し、担当指導者またはその代行者の指導の下で実施する。 4) アパレル企業における工場インターンシップ例を次に示す ①全般概要、②CAD・CGによる作業、③量産方式による縫製実習、④仕上げ、⑤商品検査 4. まとめ（担当：服飾美術学科全教員） インターンシップのまとめとしてお礼状とレポートを記入 定期試験は実施しない。				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	【参考書】小川慎一 他 (2015) 『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』有斐閣 【参考書】梅崎修 編 (2019) 『労働・職場調査ガイドブック』中央経済 【参考書】梅崎修 編 (2019) 『学生と企業のマッチング』法政大学出版局 【参考書】松永伸太郎 (2022) 『21 世紀の産業・労働社会学―「働く人間」へのアプローチ』ナカニシヤ出版 ※参考書は必ずしも購入する必要はない。その他の参考文献は必要に応じて適宜紹介する。				
事前学習の内容	事前予習を十分行った上でインターンシップに臨むこと。 事前準備としてインターンシップ先の企業等に関する予備調査をすること。				
事後学習の内容	インターンシップを振り返り、所定の日誌に記すこと。				
評 価 の 方 法 基 準	インターンシップ評価シート（50%）、インターンシップ日誌とレポート（50%）により評価する。				
履 修 上 の 意 注	下記の注意点をよく読み、理解した上で履修してください。 ・インターンシップ先の企業等の多大なる協力によって成り立っていることに留意すること。 ・インターンシップ先の企業等ごとに、就業規則等に準じて実習を行うため、特別の理由なく遅刻や欠勤をしないこと。また、安全守則を厳守すること。 ・社会人としての規律と自覚を持って実習に参加すること。 ・採用につながる可能性があることを意識すること。 ・原則として2025年8月末日までにインターンシップを終えること。 ・大学が準備している履修先企業（20社程度）の数を上回る受講希望があった場合は、履修先を自ら探索・確保することを求める場合がある。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	インターンシップⅡ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	1 年次・後期（集中）
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 この科目は、日ごろ学んでいる知識や技術を用いて、多角的な視点から企業を観察する眼を養うことや、将来自分が希望する就職先企業についての探索、研究など、進路選択の基盤とすることが目的である。 【到達目標】 ・大学で学んでいる知識・理論・技術が実社会でどのように生きているか、あるいは、どのような相違があるかを考えること ・自分自身の将来について考えること ・自分自身の適性を確認できるようになること ・学びと働くことの意義を考えること ・働くことの楽しさや厳しさを体感すること ・就職活動に対する選択肢を広げ自分自身のキャリアデザインを描くこと ・自分の将来設計、適正に沿った就職先企業の絞り込みを行い得ること				
授 業 の 内 容 方 進 め 方	受入企業や団体によって日程や実習期間（原則として1週間程度）が異なるので注意すること。 1. インターンシップとは（担当：情報・地域・ビジネスコース教員） 企業や団体などで働くこと、キャリアデザイン、マナーについて考える 2. インターンシップの準備（担当：情報・地域・ビジネスコース教員） 企業の事前調査、インターンシップ先の決定 3. インターンシップの実施（担当：服飾美術学科全教員） 1) 基本的にはインターンシップ受け入れ企業の事業内容、インターンシップ受け入れ態勢及び勤務規則に従って実施する。 2) インターンシップ内容については、企業と大学間で打ち合わせた基本線に準じて企業が詳細計画を作成し、担当指導者またはその代行者の指導の下で実施する。 3) アパレル企業における工場インターンシップ例を次に示す ①全般概要、②CAD・CGによる作業、③量産方式による縫製実習、④仕上げ、⑤商品検査 4. まとめ（担当：服飾美術学科全教員） インターンシップのまとめとしてお礼状とレポートを記入 定期試験は実施しない。				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	【参考書】『ひととはなぜ服を着るのか』鷲田清一（ちくま文庫） 【参考書】『河北秀也のデザイン原論』河北秀也（新曜社） 【参考書】『アパレル科学概論（生活環境学ライブラリー）』松生勝 編著（朝倉書店） 【参考書】『「仕事映画」に学ぶキャリアデザイン』梅崎修 他(有斐閣) ※参考書は必ずしも購入する必要はない。その他の参考文献は必要に応じて適宜紹介する。				
事前学習の内容	事前予習、事前準備をしっかりと行った上でインターンシップに臨むこと。				
事後学習の内容	インターンシップを振り返り、所定の日誌に記すこと。				
評 価 の 方 法 基 準	インターンシップ評価シート（50%）、インターンシップ日誌とレポート（50%）により評価する。				
履 修 上 の 意 注	下記の注意点をよく読み、理解した上で履修してください。 ・インターンシップ先の企業等の多大なる協力によって成り立っていることに留意すること。 ・インターンシップ先の企業等ごとに、就業規則等に準じて実習を行うため、特別の理由なく遅刻や欠勤をしないこと。また、安全守則を厳守すること。 ・社会人としての規律と自覚を持って実習に参加すること。 ・採用につながる可能性があることを意識すること。 ・原則として2026年1月末日までにインターンシップを終えること。 ・原則として履修先を自ら探索・確保することを求める。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	課題研究		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 2 年次の卒業研究に向けた基礎力を 1 年次において高めておくことをめざす。 【到達目標】 ・ 研究テーマの探索と基礎資料の収集に関する基礎的方法論を理解する。 ・ 進学や就職先についての考え方、心構え、探索方法を理解する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	学科内の教授・准教授・講師・助教のいずれかを指導教員とし、その教員指導のもとに 2 年次において行うこととなる研究活動の準備段階として、研究テーマの探索と基礎資料の収集・基礎技術の習得を半年間に渡って継続的に行う。また、進学（他大学等編入学・専攻科進学）や就職活動のための指導についてもその場を積極的に活用するものとする。 1. オリエンテーション 2～5. 自身が興味・関心を持つ卒業研究テーマ（案）の探索 6～11. 自身が興味・関心を持つ卒業研究テーマ（案）に関する基礎資料の収集・基礎技術の習得 12～14. 自身が興味・関心を持つ卒業研究テーマ（案）の絞り込みと卒業研究に向けての準備 15. まとめ（就職活動準備指導含む） 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	各自の研究により教材が異なる。				
事前学習の内容	自身が興味を持つ研究分野に関する予備的調査をすること。				
事後学習の内容	研究テーマについて自主的な探究を継続すること。				
評 価 の 方 法 基 準	各学生の探求テーマの実施内容、成果に照らし、服飾美術学科教員が学生ごとに個別に行う。				
履 修 上 の 意 注	各指導教員で受入れ人員に制限がある。				

学 科	服飾美術学科		担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	卒業研究			科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・通年	
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 学生が興味を抱き、疑問を感じ、関心を寄せた事柄について、指導教員の指導のもとでテーマをもち、実証性・客観性・論理性・芸術性などを追求し、まとめ上げることを学ぶ。 【到達目標】 在学 2 年間の集大成として、選択した研究テーマについて研鑽・探究活動を行うことにより、本学において短期大学士を授与されるに値する知識・教養・技能を身につける。					
授 業 の 内 容 進 め 方	学科内の教授・准教授・講師・助教のいずれかを指導教員とし、その教員の指導のもとに、個人または集団で定めた研究テーマについて、1 年間を通して継続的に研究を行う。得られた成果については、中間発表（ゼミにより自由）を行い、最終的には卒業論文要旨集へ全員掲載、口頭発表あるいは作品発表を行う。 1. オリエンテーション 2～3. 卒業研究テーマの決定 4～5. 卒業研究テーマの内容（目的、計画・過程）の作成 6～7. 卒業研究テーマの手段、方法の作成 8～9. 計画に沿った研究の準備 10～20. 計画に沿った研究の実施、作品の制作 21. 中間発表 22～27. 調査等の結果の分析、作品仕上げ 28. 図録の作成 29. 研究発表会に向けての準備およびプレゼンテーション 30. 全体まとめ 定期試験は実施しない					
実 務 経 験 を 活 か す 内 容						
テ キ ス ト 教 材	各自の研究により教材が異なる。					
事前学習の内容	卒業制作のための先行研究の調査をすること。					
事後学習の内容	研究テーマについて自主的な探究を継続すること。					
評 価 の 方 法 基 準	各学生の研究テーマの研究到達度、内容、成果に照らし、服飾美術学科教員が学生ごとに個別に行う。					
履 修 上 の 注 意	各指導教員で受入れ人員に制限がある。					